


EQUINOX[®]

700 | 900

取扱説明書

POWERED BY **Multi-IQ**
Simultaneous Multi-Frequency Technology


MINELAB

内容

スタートガイド

クイックスタート	5
部品概要	6
部品のお手入れ	6
画面プロテクターの使用	6
コントロール	7
ディスプレイ	8
探査モードの紹介	9
適切な探査モードの選択	9
プロファイルのリセットする	9

探査モード

公園	11
野原	12
浜辺	13
金*	14

一般設定

グローバル設定とローカル設定	16
周波数	17
周波数の変更	17
Multi-IQの操作	17
シングル周波数の操作	17
周波数と探査モード	17
感度	18
感度の調整	18
深度ゲージ	19
照明	20
バックライト	20
フラッシュライト	20
バイブレーション	21
マスターバイブレーションのオン/オフを切り替える	21
トーン領域バイブレーションのオン/オフの切り替え	21
ユーザープロファイル*	22
ユーザープロファイルの保存	22
ユーザープロファイルのオン/オフを切り替える	22

設定メニュー

設定メニューナビゲーション	24
設定メニューナビゲーション	24
高度な設定へのアクセス	24
ノイズキャンセル	25
自動ノイズキャンセル	25
手動ノイズキャンセル*	26
連続自動ノイズキャンセル	26
対土壌バランス調整	27
対土壌バランスの自動調整	27
対土壌バランスの手動調整	28
対土壌バランス調整の追跡	28
音量調整	29
音量を調整する	29
トーン音量(高度な設定)	30
トーン音量の調節	30
しきい値レベル	31
しきい値レベルの調整	31
「基準」しきい値トーン	31
「正確な」しきい値トーン	31
しきい値ピッチ*(高度な設定)	33
しきい値ピッチの調整	33
ターゲットトーン	34
ターゲットトーン設定の選択	34
ターゲットトーン数の変更	34
トーンピッチ(高度な設定)	35
トーンピッチの調整 - 1、2、5トーン	35
トーンピッチの調整 - すべてのトーン	36
承認/排除	37
識別パターンの作成	37
検出時にターゲットを承認または排除する	37
すべての金属	37
トーンブレイク(高度な設定)	38
トーンブレイクの調整	38
回復スピード	39
回復スピードの調整	39
スイングレート	39
鉄バイアス(高度な設定)	40
鉄バイアスのしくみ	40
鉄バイアス設定の選択	40
鉄バイアスの調整	40

* EQUINOX 900のみ

コンテンツ (続き)

ターゲット識別、ピンポイント探知、リカバリー

ターゲットの識別	42
ターゲット識別番号	42
識別スケール	42
ピンポイント探知	43
ピンポイント探知モードの可視化	43
ピンポイント探知モードによるターゲットの位置確認	43
手動でターゲットの位置を確認する	44

ヘッドホン、バッテリー、充電

無線ヘッドホン	46
ML 85無線ヘッドホン	46
無線ヘッドホンのペアリング	46
以前ペアリングしたヘッドホンの再接続	46
無線オーディオインジケータ	46
有線ヘッドホン	47
有線ヘッドホンの接続	47
防水ヘッドホンの接続	47
ヘッドホンソケットの水没	47
バッテリーと充電	48
充電器に関する情報および安全性	48
バッテリーの充電	48
バッテリー残量表示	49
パワーバンクで操作する	49
バッテリーメンテナンス	49

エラーとトラブルシューティング

エラーコード	51
コイル接続不良エラー	51
システムエラー	51
バッテリー残量不足エラー	51
一般的なトラブルシューティング	52

安全性、お手入れ、メンテナンス

検出器のお手入れと安全性	55
一般的なお手入れと安全性	55
部品のメンテナンス	56

仕様、プリセット、コンプライアンス

技術仕様	58
初期設定	59
工場出荷時設定リセット	61

▲ 注意事項

検出器を初めて組み立てたり、充電したり、使用する前に、以下のセクションに記載されている警告および安全情報をお読みください。

- ▶ 「充電器に関する情報および安全性」(ページ 48)
- ▶ 「一般的なお手入れと安全性」(ページ 55)

スタートガイド

クイックスタート

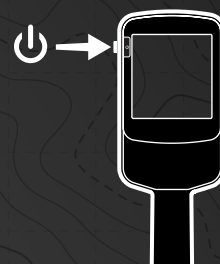


初めて使用する前に、6時間かけて完全充電することをお勧めします (ページ 48)。

1

オンにする

コントロールパネル側面の電源ボタンを押します。



2

探査モードを選択する


探知場所や対象物に合わせて、探査モードを選択します。

最適な探査モードの選択方法については、「探査モードの紹介」ページ上 9 を参照してください。



3


ノイズキャンセル

設定メニューから「ノイズキャンセル」を選択し、 を押し、自動ノイズキャンセルが開始されます。5秒程度で完了します。



4

探しに行く

 を押して探知画面に戻って、探し始めましょう!

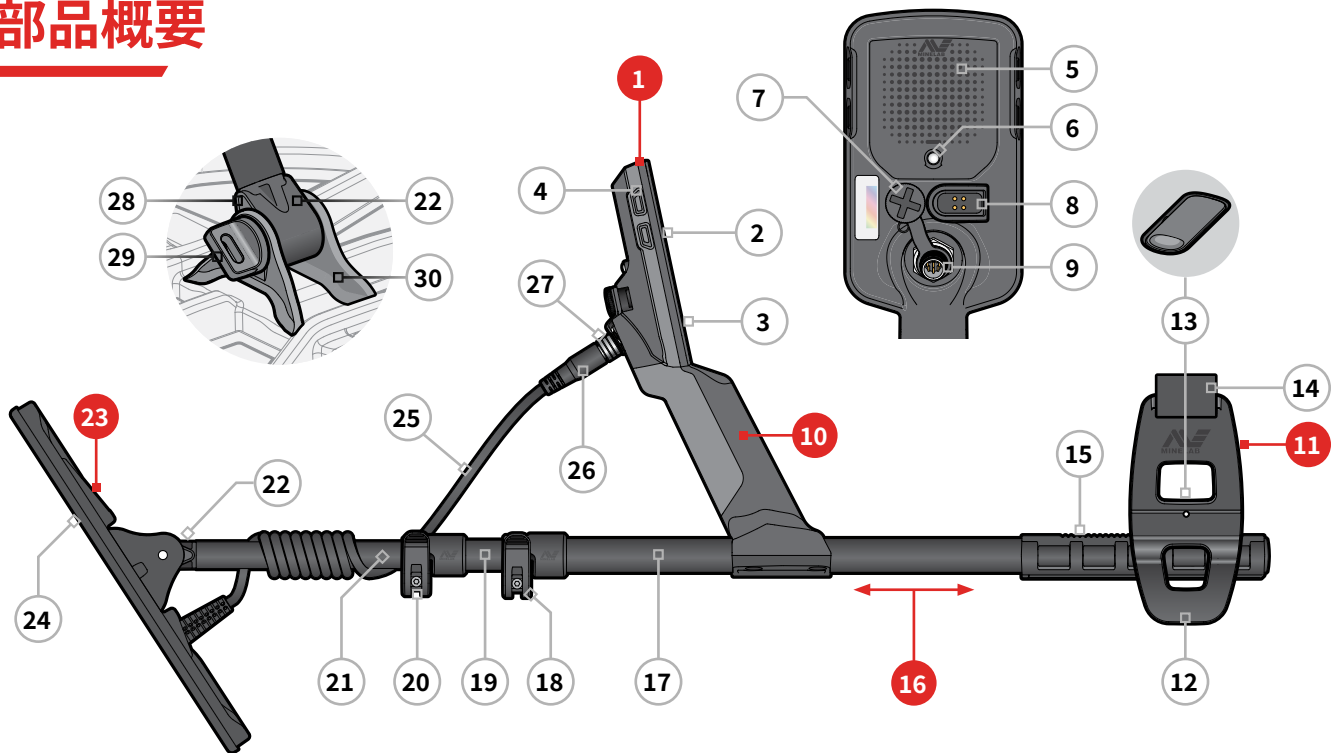


クイックスタートの手順完了後、グラウンドノイズが過剰な場合は、対土壤バランス調整を実行してください (ページ 28)。

それでもノイズが多い場合は、感度を少し下げてください (ページ 18)。

* EQUINOX 900のみ

部品概要



1. コントロールポッド

- 2. ディスプレイ
- 3. キーパッド
- 4. サイドボタン (×3/×4*)
- 5. スピーカー
- 6. フラッシュライト
- 7. ヘッドホンソケット 3.5mm/1/8インチ (防水ダストキャップ付)
- 8. 充電中インターフェース
- 9. コイルコネクタインターフェース

10. ハンドグリップ

バイブレーション機能付き、リチウムイオン充電電池内蔵

11. アームレスト

- 12. スタンド
- 13. アームレストロック
- 14. アームストラップ
- 15. アームレストレール

16. シャフト

- 17. 上部シャフト
- 18. 上部カムロック
- 19. 中央シャフト
- 20. 下部カムロック
- 21. 下部シャフト
- 22. シャフトヨーク

23. コイル (ケーブル付き)

- 24. スキッドプレート
- 25. コイルケーブル
- 26. コイルコネクタ
- 27. 固定用リング
- 28. ティアドロップワッシャー (×2)
- 29. コイルボルト
- 30. ヨークブラケット

* EQUINOX 900のみ

部品のお手入れ

本探知器は、その耐用年数を通じて良好な動作状態を維持するために、示されている部品を定期的にメンテナンスおよびケアしなければなりません。本探知器を使用する際や、部品のクリーニングもしくはメンテナンスを行う際は、事前「**一般的なお手入れと安全性**」ページ上 55に記載されているすべての指示を注意深く読み、その内容に従ってください。

⚠ 本探知器のいかなる部分にも潤滑剤や、シーリング剤、溶剤、またはアルコールベースのクリーナーを使用しないでください。 イソプロピルアルコールやシリコン潤滑剤のような一般的に刺激が少ないと考えられている化学物質であっても、材料の特性やシールの完全性を損なう可能性があります。本製品に化学薬品を使用した場合、保証が無効になる場合があります。

画面プロテクターの使用

画面プロテクターを貼ることで、通常の使用による擦り傷や引っ掻き傷から画面を保護することができます。

1. 探知画面の薄いプラスチックフィルムをはがす。画面にホコリや指紋がないことを確認してください。
2. 画面プロテクターの裏面を、粘着面に触れないように注意しながらはがす。
3. 画面プロテクターの端を押さえ、画面に合わせて静かに貼る。
4. 柔らかいきれいな布で、端まで気泡を拭きとる
5. 表のレイヤーをはがす。

コントロール



1. 充電状態LED

探知機のバッテリー充電状態を表示します (ページ 48)。

2. 電源

検出器のオン/オフを切り替えます。

オフ状態で長押し (7秒) すると、工場出荷時設定にリセットされます (ページ 61)。

3. バックライト

バックライトの明るさを選択します (ページ 20)。

長押し (2秒) すると、フラッシュライトのオン/オフを切り替えます (ページ 20)。

4. 探査モード

次に利用可能な探査モードを選択します (ページ 9)。

長押し (5秒) すると、現在の探査モードプロフィールのローカル設定を工場出荷時のプリセットにリセットします (ページ 9)。

5. すべての金属

現在の識別パターンと、すべてのターゲットを受け入れる「すべての金属」を切り替えます (ページ 37)。

6. ピンポイント探知/検出

設定メニューで押しすると、探知画面に戻ります。

探知画面で押しすると、ピンポイント探知 (ページ 43) が起動します。もう一度押しすると、ピンポイント探知が解除されます。

7. 周波数

使用可能な周波数 (kHz) をスクロールします: 4、5、10、15、20*、40* およびマルチ (ページ 17)。

8. 承認/排除

各識別セグメントをオン/オフすることで、ターゲットを承認または排除します (ページ 37)。

識別パターンの作成 (ページ 37) や、設定メニューによるトーン領域*の調整で使用します。

9. マイナス/プラス

探知画面で押しすると、感度を調整します (ページ 18)。

設定メニュー内で押しすると、選択した設定の値を調整することができます。

10. 設定

これを押しして、設定メニューにアクセスし、スクロールします。

設定メニューから長押し (2秒) すると、高度な設定が可能な場合は、その設定にアクセスできます。

11. ユーザープロフィール*

これを押しすると、保存したユーザープロフィールのオン/オフを切り替えます (ページ 22)。

長押し (2秒) すると、現在の探査モードの設定がカスタム探査モードに保存されます (ページ 22)。

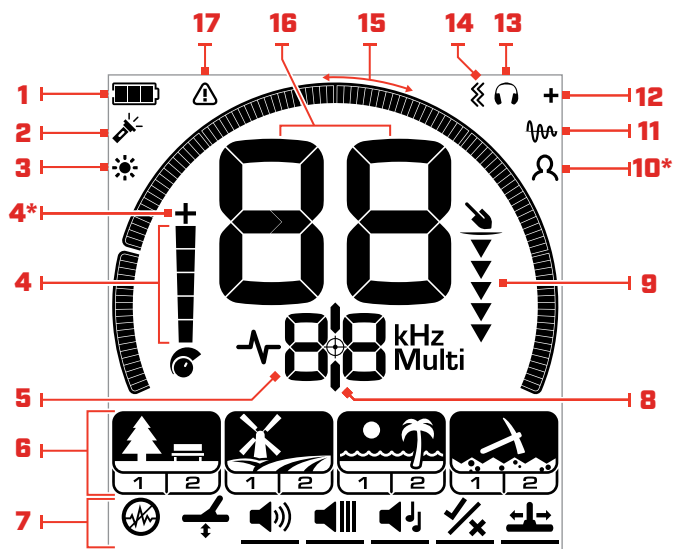
12. 無線オーディオ

無線オーディオのオン/オフを切り替えます (ページ 46)。

長押し (2秒) すると、新しいヘッドホンを接続するための無線ペアリングモードが開始されます (ページ 46)。

* EQUINOX 900のみ

ディスプレイ



1. バッテリー残量/充電

現在のバッテリー残量を表示します (ページ 48)。

2. フラッシュライトインジケータ

フラッシュライトがオンであることを示します (ページ 20)。

3. バックライトインジケータ

バックライトがオンであることを示します (ページ 20)。

4. 感度

感度を表示します (ページ 18)。

5. 周波数ディスプレイ

現在の動作周波数を表示します (ページ 17)。

また、エラーコード (ページ 51)、および現在有効になっている高度な設定を表示します。

6. 探査モード

探査モードを表示します:公園、野原、浜辺、金*。

各探査モードには、カスタマイズ可能な2つのプロフィールがあります (ページ 9)。



7. 設定メニュー

すべての「設定」および「高度な設定」のメニュー (ページ 23)。

8. ピンポイント探知インジケータ

ピンポイント探知がオンになっていることを示します (ページ 43)。

9. 深度ゲージ

検出したターゲットのおおよその深さを表示します (ページ 19)。

10. ユーザープロフィール*

保存されたユーザープロフィールが有効であることを示します (ページ 22)。

11. 対土壌バランス調整の追跡インジケータ

対土壌バランス調整の追跡がオンになっていることを示します (ページ 28)。

12. 無線オーディオインジケータ

無線オーディオがオンであることを示します (ページ 46)。

13. ヘッドホンインジケータ

ヘッドホンが検出器に接続されていることを示します (無線または有線) (ページ 47)。

14. 振動インジケータ

ハンドルバイブレーションがオンであることを示します (ページ 21)。

15. 識別スケール

各ターゲット識別番号をセグメントとしてスケールで表現します。セグメントをオン/オフして、識別パターン (ページ 37およびページ 17) を作成することができます。

高解像度119セグメント (-19~99) の識別スケールにより、正確で安定したターゲット識別が可能です (ページ 58)。

ピンポイント探知モード時にターゲット信号強度を視覚的に表示します (ページ 43)。

また、高度なオーディオ設定でトーン領域を調整する場合にも使用します。

16. ターゲット識別ディスプレイ

検出されたターゲットに、導電性か鉄性かで数値 (-19~99) を割り当てます。これによって、掘る前に対象物を特定することができます。例えば、米国の25セント硬貨は、通常、89のターゲットID番号が割り振られています (ページ 42)。

マイナスの数値は鉄系、プラスの数値は非鉄系で、純金 (IDが低いもの) から大粒の銀 (IDが高いもの) まであります。

17. 浜辺過負荷インジケータ

浜辺モード時に送信信号強度が自動的に低下していることを示します。これにより、極端な条件による過負荷を防ぐことができます。

* EQUINOX 900のみ

探査モードの紹介

適切な探査モードの選択

EQUINOX 700/900には、独自のターゲット分離および深度能力を持つ探査モードがプリセットされています。探査モードを正しく選択することは、検出する環境に応じた最高のパフォーマンスを得る上で重要です。

各モードは、一般的な検出の用途を表します：公園、野原、浜辺、金*。各探査モードには2つのプロファイルがあり、その場所の典型的な条件下で検出器が最高の性能を発揮できるよう、独自に事前設定されています。各プロファイルは、変更・保存が可能です。

探査モードとプロファイルを選択する



探査モードボタンを押して、次の探査モードを選択します。
公園、野原、浜辺、金*など、探知する場所に最適な探査モードを選択します。

検出器の設定をより最適化するために、検出条件に最適な探査プロファイルを選択します。

- 探査プロファイル1は一般的な条件下に適しています。
- 探査プロファイル2は、より困難な条件下での使用に最適化されています。ターゲットの感度は向上しますが、余分なノイズが発生する場合があります。

公園

ゴミの多いレクリエーションエリアや、一般的な検出に最適です。

詳しくはページ 11を参照してください。



プロファイル1 一般・コイン
プロファイル2 宝飾品

野原

昔からある野原で、最も幅広いターゲット種類を検出するのに最適です。

詳しくはページ 12を参照してください。



プロファイル1 コインと遺物
プロファイル2 貴重なコインと遺物

浜辺

乾いた砂、濡れた砂、波および水中など、あらゆる塩分を多く含む条件に対応しています。

詳しくはページ 13を参照してください。



プロファイル1 乾いた・濡れた砂
プロファイル2 水中とサーフ

金*

鉱物化した金鉱場での金塊探査向け。

詳しくはページ 14を参照してください。



プロファイル1 普通の土壌
プロファイル2 困難な土壌

* EQUINOX 900のみ

プロファイルのリセットする

個々の探査プロファイルは、簡単に工場出荷時の設定に戻すことができます。

- ローカル設定のみリセットされます
- グローバル設定は、最後に使用された状態のままです

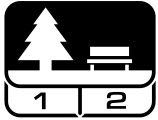
- 探査モードボタンを押して、リセットしたいプロファイルに移動します。
- ターゲットIDディスプレイに「SP」と表示されるまで、探査モードボタンを長押ししてください。

SP

探査モードプロファイルがリセットされると、ターゲットIDディスプレイに「SP」表示されます。

探査モード

公園



ゴミの多いレクリエーションエリアや、一般的な検出に最適です。

公園モードは、都市部の公園や最近人が住んでいる場所など、コインや宝飾品がありそうな場所を探索するために設計されています。アルミホイル、プルタブ、ボトルキャップなど、金属製のゴミも多く見られます。

公園モードは、淡水探査など他の一般的な用途の出発点として適しています。

公園モードの初期設定では、レクリエーション公園のようなゴミが多い場所でも、深度が深く、正確にターゲットを識別し、良好な識別性能を発揮します。周波数をMultiに設定すると、公園モードは幅広いターゲットに対して最も感度が高くなり、同時に多くのゴミを排除します。新しい場所で迷ったとき、または初めて検出するときは、まず公園モードを試してください。

公園プロフィール1:一般・コイン

公園1は、現代のコインや大きな宝飾品に最適化されており、デフォルトの識別パターンでは、一般的なアルミ箔のようなターゲットを排除するように設定されています。そのため、他のモードやより専門的な設定を試す前に、まずEQUINOXを学ぶのに最適なプロフィールです。

公園1 Multi-IQは、マルチ周波信号をより低い周波数で重み付けて処理するとともに、土の対土壌バランス調整を最大化するアルゴリズムを用いて、最高の信号対雑音比を実現します。そのため、公園1は一般的な検知やコインハンティングに最も適しています。

公園プロフィール2:宝飾品

公園2は、ゴミが多い場所（鉄系ゴミを含む）での小さめのターゲットに最適です。低導体（または高周波）のターゲット、例えば高級宝飾品を含む、より広い範囲のターゲットを検出することができます。デフォルトでは、非鉄金属製のターゲットはすべて受け入れられます。回復スピードが向上し、鉄のゴミに覆われた良質のターゲットを明確に識別できるようになります。

ターゲットトーンをすべてのトーン (At) (ページ 34) に設定し、できるだけ多くのターゲット情報をオーディオで提供するようにします。公園2 Multi-IQは、土の対土壌バランス調整を取りながら、より高い周波数で重み付けされたマルチ周波数信号を処理します。

公園での探知ホットスポット

公園のベンチの近くや木陰など人が集まる場所、レクリエーション場の部室や観客席の近くなど、人が集まる場所で検知します。

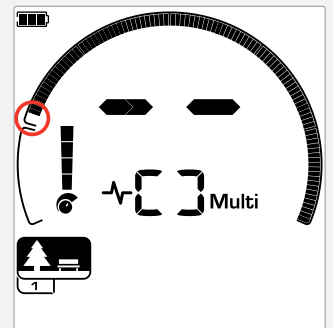
お祭りやイベントの後は、特に硬貨などの発見物が多いですが、他の探知技師と競争するはめになる可能性があります。

公共の公園、レクリエーションエリア、私有地での探知が許可されていることを常に確認してください。

公園の困難な場所 — アルミホイル

現代の公園には、一般的に捨てられたゴミ（例：飲料缶、プルタブ、リングプルなど）に多くのアルミニウム片が含まれています。アルミニウムは非鉄で、非常に導電性の低いターゲットであるため、ターゲットIDは高級宝飾品と同じ範囲に入ります。

アルミホイルをあまり掘らず、かつ高級宝飾品を見つけたい場合は、ターゲットID1、2を排除する公園1を使用してください。アルミゴミの方がサイズが大きい場合、上位の隣接IDを排除します。



公園モード探査プロフィールの識別パターンにおいて、ターゲットID1、2を排除します。

野原



昔からある野原で、最も幅広いターゲット種類を検出するのに最適です。

野原モードは、牧草地、作付けまたは耕作された畑、歴史的に居住していた場所を検索するためのモードです。このような環境では、一般に、以前人が住んでいた場所から鉄のゴミやコークスなどが出てきます。野原モードは、鉄ゴミの中に混じっているコークスや打ち出しコイン、古代の遺物などを検出するのに適しています。

周波数がマルチに設定されている場合、野原モードは、すべてのシングル周波数オプションと比較して、最も幅広いターゲットに最も敏感で、検出深度の限界にあるオブジェクトをより正確に識別します。

野原紹介1: コインと遺物

野原1は、ゴミの排除率が高い一般的なハント用です。このモードでは、より簡単に目的の場所を見つけることができるようになります。デフォルトの識別パターンは、ターゲットID1~4 (ほとんどのコークス信号) を排除するように設定されています。

最初のトーンブレイクは、ターゲットID1~4が鉄系ターゲットと同じ低音を発生するように設定されています。野原1 Multi-IQは、より低い周波数で重み付けされたマルチ周波数信号を処理するとともに、土に対して土壌バランス調整を最大化するアルゴリズムを使用し、最高のS/N比を実現します。そのため、一般的な探知やコインハンティングに最も適しています。

野原プロファイル2: 貴重なコインと遺物

野原2は、鉄系ゴミを含むターゲットとゴミの密度が高い場所に適しています。小さな打ち出しコインのエッジや深さを検知しやすくなります。デフォルトの識別パターンは、ターゲットID1~4 (ほとんどのコークス信号) を排除するように設定されています。

ターゲットトーンをすべてのトーン (At) に設定し、オーディオ識別を強化するとともに、回復速度を高速化します。最初のトーンブレイクは、ターゲットID1~4が鉄系ターゲットと同じ低音を発生するように設定されています。野原2 Multi-IQは、土の土壌バランス調整を取りながら、より高い周波数で重み付けされたマルチ周波数信号を処理します。

野原での探知ホットスポット

歴史的なものを探する場合、人目につかなくなつて久しい昔の人が住んでいた場所を探したくなりますでしょう。

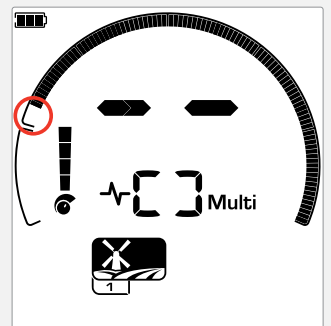
古文書や地図、記事などから、古い遺跡があるかもしれない場所を調べるのは、とても良い方法です。このような場所選びの手法が功を奏し、素晴らしい成果を上げることができるのです。また、耕したばかりの田んぼは、深いところにあったターゲットが耕されることによって表面に出てきている可能性があるため、非常に良い検出場所と言えます。

野原の困難な場所 — コークス

コークスとは、石炭を燃やしたときにできる炭や炭素の副産物で、歴史的に人が多く住んでいた地域に多く存在します。

一般的にコークスのターゲットIDは1か2ですが、4まで上がることもあります。このため、野原モードではデフォルトで排除されます。ただしこの場合、非鉄の小さなターゲットが見落とされることがあります。

野原1のMulti-IQは、ターゲットID1~4を受け入れるものの、Multi-IQを使用する野原2よりもコークスをより多く排除します。



野原モード探査モードの識別パターンにおいて、ターゲットID1~4は排除されます。

浜辺



あらゆる塩分を多く含む条件 (乾いた砂、濡れた砂、波および水中など) に最適化されています。

浜辺モードは、乾いた砂、濡れた砂、波および水中など、海水浴場向けのモードです。一般的に存在する塩分によって、砂と水の導電性が高くなり、塩による信号ノイズが検出されるようになります。Multi-IQは、このノイズをシングル周波数よりも低減することができるのです。したがって、マルチは周波数の唯一の選択肢です。

浜辺モードでは、残留する塩分を特定し、不要なターゲットであることを示すターゲットIDを0 (ゼロ) にすることで、塩水による干渉を最小限に抑え、金の鎖などの導電性の低いターゲットを容易に検出することができます。また、回復スピードを比較的高くすることで、検出深度を大きく犠牲にすることなく、不要な塩水信号をさらに低減しています。

浜辺プロファイル1 — 濡れた砂と乾いた砂

浜辺1は、湿った砂浜や乾いた砂浜、また導電性の塩類信号が多い浅瀬での検知に最も有効です。コインや大小の宝飾品にも良好な感度を発揮します。浜辺1は、高い送信出力を維持しながらも、塩による信号を減らし、望ましいターゲットに感度を合わせることができます。浜辺1 Multi-IQは、低周波で重み付けされたマルチ周波数信号を処理し、特殊なアルゴリズムで塩の対土壌バランス調整を最大化します。

i 湿った砂地での性能を最大限に引き出すには、ノイズキャンセルチャンネル、回復スピード、鉄バイアスを変更した後に対土壌バランス調整 (ページ 27) を実行してください。

浜辺プロファイル2 — 水中と波

浜辺2は、波打ち際を歩きながら、または浅瀬を潜りながら、コイルと検出器を完全に浸した状態で使用すると最も良い結果が得られます。このような場合、非常に強い塩による信号ノイズが存在するため、浜辺2の送信電力が低くなり、ノイズはかなり少なくなります。

このプロファイルは、グラウンドノイズのレベルが非常に高い、乾燥した環境でも役立ちます。浜辺2 Multi-IQは、浜辺1と同じアルゴリズムで、非常に低いウェイトの多周波数の組み合わせを処理し、塩の対土壌バランス調整を最大化します。

浜辺での探知ホットスポット

栈橋や遊歩道の下、階段の脇、浜辺への出入り口などで、コインや宝飾品を探ることができます。

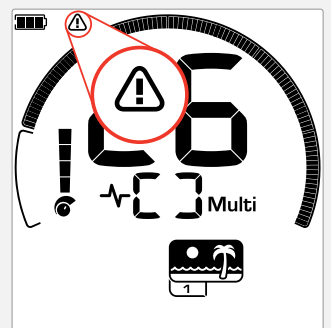
人が一番よく泳ぐ場所を探し、その水深の深い場所で検知します。水中に入ると、砂の上にいる他の探知技師より有利になる場合があります。歴史的な発見に興味があれば、難破船を研究しましょう。

時に、荒天で砂の表層が流されてより深い層が露出したそこに、良いターゲットが潜んでいることがあります。

浜辺の困難な場所 — 黒砂

浜辺の中には、天然の鉄分を多く含み、磁気を帯びている可能性が高い黒砂が含まれているところもあります。そのため、鉄の誤検出が続き、通常の浜辺での探知が不可能になります。

浜辺モードは、黒砂を自動的に感知し、送信電力を低減することで、オーバーロードを発生させることなくターゲットを検知することができます。黒砂を感知すると、LCDに浜辺過負荷インジケータが表示されます。このアイコンが消えると、自動的に送信電力が最大になります。



送信信号強度が自動的に低下すると、浜辺過負荷インジケータが表示されます。

金*



鉱脈のある金鉱地帯での金塊探査に最適です。

金*モードは、金塊探査用です。一般的に金塊は、ターゲットがまばらに存在する遠隔地の金鉱場で発見されることが多いです。

金*モードでは、他の探査モードと同様にターゲットトーンのオプションはありません。その代わりに、独自の探鉱オーディオを搭載しています。このオーディオは、より繊細な音の変化を提供する「正確な」しきい値トーン (ページ 32) を搭載しています。ターゲットを検出すると、ターゲット信号の強さに比例して信号の音量とピッチが変化します。

金*モードは、鉱物の多い地表の小さな金塊 (および一部深部の大きな金塊) を探すのに適しています。

金プロフィール1* — 通常的地面

金1は、「マイルド」な地盤で小さな金塊を探すのに適しています。ほとんどの金鉱地帯では、鉄鉱石のレベルが変化するため、継続的に対土壤バランス調整が必要になります。したがって、対土壤バランス調整の追跡が初期設定となります。オーディオしきい値レベルやしきい値ピッチは、金塊探査に最適化されています。

金1 Multi-IQは、鉱化した土の対土壤バランス調整を取りながら、高周波の重み付けをしたマルチ周波数信号を処理します。

金プロフィール2* — 困難な土壌

金2は、「困難な」地盤条件下でより深い金塊を探すのに最適です。金2は回復スピードが低いため、検出深度を上げることができます。しかし、鉱物の多い場所では、より多くのグランドノイズが発生する可能性があります。対土壤バランス調整の追跡は初期設定です。オーディオしきい値レベルやしきい値ピッチは、金塊探査に最適化されています。

金2 Multi-IQは、鉱物の多い土壌のために対土壤バランス調整を取りながら、高周波の重み付けをしたマルチ周波数信号を処理します。

* EQUINOX 900のみ

金の探知ホットスポット

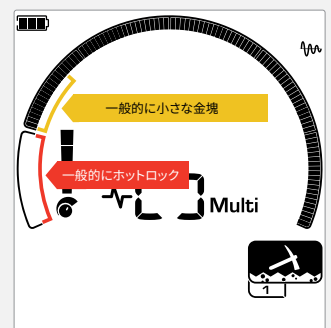
金塊を探すのに最適な場所は、過去に金が発見された場所です。また、地質がよく似た周辺地域も探索する価値があります。多くの政府系鉱業機関は、金鉱の位置を示す地図を発行しており、関連する化石採集や趣味の試掘のライセンス取得に関するアドバイスも行っています。

金鉱跡の尾鉱、1800年代の古い掘削場、金鉱探しが行われる小川の中や近く、乾燥した吹きさらしの場所、古い岩礁鉱のダンプや斜面などに探知しに行きましょう。

金の困難な場所 — ホットロック

「ホット」な岩石は、金鉱探しの場所によく見かけます。これは、周囲の地面とは異なる鉱物を含んだ岩石のことです。鉱物の多い岩石が、鉱物の少ない地中に埋まっているとホットロックとみなされます。

ホットロックは金塊と間違われやすいです。一般的にホットロックは負のターゲットID番号を持ち、金は非常に低い導電率領域で正のIDを持つので、ターゲットIDがここで役に立ちます。



ターゲットID1、2は、導電性の低い小さな金塊をよく示します。ホットロックは、一般に鉄系のものが多いです。

一般設定

グローバル設定とローカル設定

グローバル設定

すべての探査モードプロファイルは、設定を変更すると影響を受けます — すべての探査モードと探査プロファイルアイコンが表示されます。



ローカル設定

アクティブな探査モード・探査プロファイルのみが設定変更の影響を受けません — 影響を受ける探査モードとプロファイルのみが表示されます。



グローバル設定とローカル設定のリファレンス

一般設定

感度	グローバル
バックライト	グローバル
フラッシュライト	グローバル
周波数	ローカル

設定メニュー

設定メニュー (設定、高度な設定) の項目を調整している間は、対象となる探査モードのアイコンが液晶画面に表示されます。

ノイズキャンセル	ローカル
対土壌バランス調整	ローカル
音量調整	グローバル
マスターバイブレーション トーン領域 バイブレーション含む	グローバル
トーン音量	ローカル
トーン領域バイブレーション マスターバイブレーションがオフの場合、 利用不可	ローカル
しきい値ピッチ*	グローバル
ターゲットトーン	ローカル
トーンピッチ	ローカル
承認/排除	ローカル
トーンブレイク	ローカル
回復スピード	ローカル
鉄のバイアス	ローカル

* EQUINOX 900のみ

周波数

EQUINOXシリーズは、Multi-IQと呼ばれる技術によるマルチ周波数の同時測定機能と、シングル周波数の選択機能を持つ検出器です。

周波数の調整はローカルで行われ、この設定の変更によって影響を受けるのは、現在の探査モードプロファイルのみです。

i すべての探査モードにおいて、周波数設定はマルチを推奨します。

! 周波数を変更するたびにノイズキャンセルを実行(ページ 25)します。

周波数の変更

1. 周波数ボタンを押すと、利用可能な周波数をスクロールします。



周波数ボタン

周波数は、周波数ディスプレイに表示されます。



Multi-IQ (同時マルチ周波数) 動作時は、矩形を表示します。



現在選択されているシングル周波数をkHzで表示します: 4、5、10、15、20*、40*。

2. ノイズキャンセルを実行します (ページ 25)。

MULTI-IQの操作

Multi-IQは全周波数帯で同時に動作するため、1つのシングル周波数でカバーできる範囲よりもはるかに広い範囲のターゲットをカバーすることができます。

Multi-IQを使用した検出は、シングル周波数よりも安定した正確なターゲットIDを提供しながら、幅広いターゲットを検出する最善の機会が与えられるため、可能な限り使用することをお勧めします。詳細な情報については、「ターゲットID感度」ページ上 42を参照してください。

シングル周波数の操作

シングル周波数を使用することは、特定の検出状況において、マルチ周波数よりも多少有利である場合があります。

例えば、大深度の高導電性ターゲットだけを探する場合、4kHzや5kHzを使うと有利になる場合があります。同様に、浅い水深で極上の金宝飾品を探する場合、乾いた砂浜の浜辺などでは、20kHz* または40kHz* (公園、野原、金*モードのみ使用) がより良い結果をもたらすかもしれません。

ノイズの多い環境 (電磁波の影響が大きく、ノイズキャンセルの効果が十分に発揮できない場合など) では、シングル周波数でマルチより少ないノイズしか拾わない場合がありますが、広い範囲のターゲットに対する最大感度が低下します。

周波数と探査モード

すべての探査モードで、すべての周波数が使用できるわけではありません。各探査モードは、そのモードで最高のパフォーマンスを発揮する周波数に制限されています。例えば、「公園モード」と「野原モード」は、どの周波数でも良い結果が得られるため、利用可能なすべての周波数設定にわたって動作させることができます。

ただし、浜辺モードはマルチの典型的な浜辺コンディションでのみ正常に動作するため、シングル周波数は使用できません。

同様に、高周波で検出しやすい導電性の低い金塊の検出に最適化した「金*モード」も搭載しています。そのため、低い方のシングル周波数 (4、5、10、15kHz) は使用できません。

EQUINOX 700

	周波数 (kHz)				
	マルチ	4	5	10	15
公園	✓	✓	✓	✓	✓
野原	✓	✓	✓	✓	✓
浜辺	✓	×	×	×	×

EQUINOX 900

	周波数 (kHz)						
	マルチ	4	5	10	15	20	40
公園	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
野原	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
浜辺	✓	×	×	×	×	×	×
金*	✓	×	×	×	×	✓	✓

* EQUINOX 900のみ

感度

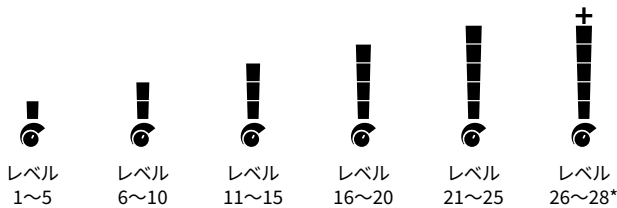


EQUINOXシリーズは高感度な検出器で、感度を調整することができます。個々の検出条件に適した感度を設定することで、検出深度を最大化することができます。

検出器の性能を最大限に引き出すには、常に安定した最高の感度設定を選択してください。

LCD上の感度インジケータは、おおよその感度を5段階で表示します。

感度はEQUINOX 700が1～25、EQUINOX 900が1～28です。



感度の調整

❗ 感度を下げる前に、必ず最初にノイズの解決を試みてください。

- ノイズキャンセル (ページ 25)、その後
- 対土壤バランス調整 (ページ 27)

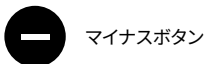
感度は、調整中はターゲットIDディスプレイに表示され、3秒間操作されないと消えます。

1. コイルを静止させたまま、プラスボタンで誤信号が発生するまで感度を上げてください。



プラスボタン

2. マイナスボタンを押して、誤信号が消える程度に感度を下げてください。



マイナスボタン

3. 地上をスイープし、グラウンドノイズが残っているようであれば、さらに感度を下げてください。

* EQUINOX 900のみ

深度ゲージ



深度ゲージは、検出したターゲットのおおよその深さを表示します。


深度ゲージはあくまで目安です。矢印の数が少ないほどターゲットが浅く、多いほどターゲットが深いことを示します。精度はターゲットの種類や地面の状態によって異なる可能性があります。

ターゲットが検出されると、5秒間または次のターゲットが検出されるまで、深度ゲージはLCDに表示されたままになります。

検出がない場合は、深度ゲージのアイコンと矢印がオフになります。

以下は深度ゲージの読みと米国の25セント硬貨の目標水深の目安の例です。

				
50mm 2インチ	100mm 4インチ	150mm 6インチ	200mm 8インチ	> 200mm >8インチ

 深度ゲージの精度は、鉱物の多い土壌では低下します。

照明

バックライト

EQUINOX 700、900の液晶ディスプレイとキーパッドは、暗い場所での検知に便利なバックライトを搭載しています。

バックライトは、検出器の電源をオンにするたびに、デフォルトでオフになります。

- EQUINOX 700は、バックライトのレベルを「Off」「High」「Low」の3段階で設定できます。
- EQUINOX 900は、バックライトの光量を「Off」「High」「Middle」「Low」の4段階で設定できます。

i バックライトの連続使用、特にフル輝度での使用は、バッテリー駆動時間の減少を招きます。

バックライトの調整

バックライトボタンを押して、バックライトの設定を循環させます(最高から最低へ)。バックライトがオンのときは、LCD上にバックライトインジケータが表示されます。



バックライトボタン



バックライトインジケータ

フラッシュライト

EQUINOX 700、900は、暗い場所での検知に便利なフラッシュライトを搭載しています。

フラッシュライトは、検出器の電源をオンにするたびに、デフォルトでオフになります。



フラッシュライトを使い続けると、電池の寿命が短くなります。

フラッシュライトのオン/オフを切り替える

バックライトボタンを長押し(2秒)します。

フラッシュライトがオンのときは、LCDにフラッシュライトインジケータが表示されます。



バックライトボタン



フラッシュライトインジケータ

バイブレーション

EQUINOX 700/900は、ハンドルに振動を与えるバイブレーション機能を搭載しています。

ターゲット信号の強さに比例して、振動の強さが変化します (探知、ピンポイント探知とも)。

バイブレーションはトーン音量の設定より、個々のトーン領域に割り当てられ、どの種類のターゲットにバイブレーションを反応させるかを決定することができます。

- EQUINOX 700の場合、鉄トーン領域 (t1) のみ振動のオン/オフが可能です。
- EQUINOX 900では、トーン領域ごとにバイブレーションのオン/オフが可能です。

初期設定では、マスターバイブレーションはオフになっています。

バイブレーションの設定は、検出器の電源を切った後でも記憶されます。バイブレーションがオンの場合、起動時に短い振動パルスが発生し、LCDにバイブレーションアイコンが表示されます。

i EQUINOX 900をお使いの方は、トーン領域1 (t1) のみバイブレーションをオンにし、t1の音量を0 (オフ) に設定してお試しください。これにより、ゴミの多い場所で探知する際に、頻繁に/繰り返し信号を聞く代わりに、鉄の探知を「感じる」ことができるようになります。

マスターバイブレーションのオン/オフを切り替える

1. 音量調整の設定に移動します。



2. 周波数ボタンを押すと、マスターバイブレーションのオン/オフが切り替わります。



トーン領域バイブレーションのオン/オフの切り替え

マスターバイブレーションがオンの場合、トーン領域バイブレーションが調整可能になります。

マスターバイブレーションを初めて有効にしたとき、トーン領域バイブレーションはt1がオフ、その他のトーン領域はオンに初期設定されています。

1. 設定ボタンを押し、音量調整の設定に移動します。



2. 設定ボタンを長押し (2秒) して、「音量の高度な設定」を選択します。



3. 承認/排除ボタンを押して、バイブレーションオン/オフを設定したいトーン領域に移動します (EQUINOX 900のみ)。



4. 周波数ボタンを押します。1度だけ短い振動パルスがあります。バイブレーションをオンにすると、液晶画面にバイブレーションアイコンが表示されます。




注:すべてのトーン領域でバイブレーションをオフにしても、バイブレーションをオンにすると探知画面にバイブレーションのアイコンが表示されます。

ユーザープロフィール*

EQUINOX 900は、コントロールポッドの側面にあるユーザープロフィールボタンを使って、現在の検出器設定のコピーを保存し、将来素早くアクセスできるようにします。

ユーザープロフィールは、ユーザープロフィールに保存された設定と、最後に使用した検出器の設定の2つを、すばやく簡単に切り替えることができる機能です。

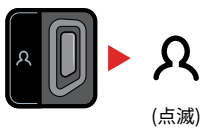
ユーザープロフィールの初期設定は、公園モード1のコピーです。

 ユーザープロフィールをオンにすると、LCDにユーザーアイコンが表示されます。

ユーザープロフィールがアクティブな状態でローカル設定に加えられた変更は、自動的に保存されます。

ユーザープロフィールの保存

1. 保存したい設定に検出器を調整します。
2. 設定メニューではなく、探知画面になっていることを確認してください。
3. ユーザープロフィールのアイコンが点滅し始めるまで、ユーザープロフィールのボタンを長押しします。



4. 確認音が鳴ったら、ボタンを離します。ユーザープロフィールのアイコンはオンのままです。

この手順を繰り返すことで、いつでもユーザープロフィールを上書き保存することができます。

ユーザープロフィールのオン/オフを切り替える

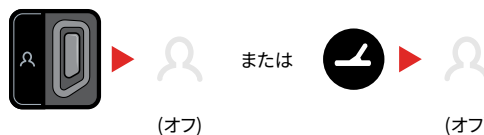
オンにする

ユーザープロフィールをオンにするには、ユーザープロフィールのボタンを押します。



オフにする

ユーザープロフィールをオフにするには、ユーザープロフィールボタンまたは探査モードボタンを押してください。設定は、最後に使用した探査モードプロフィールに戻ります。



* EQUINOX 900のみ

設定メニュー

設定メニューナビゲーション

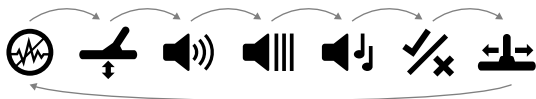
設定メニューには、検出器に関する調整可能な設定が含まれています。このメニューから、オーディオやその他の検出設定を変更することができます。

設定メニューナビゲーション



設定メニューは、どの画面からも設定ボタンを押すことで呼び出すことができます。

設定ボタンを押すたびに、設定メニューの次の設定項目が左から右へスクロールします。最後の設定後、検出器は探知画面に戻ります。もう一度設定ボタンを押すと、再び左からスクロールを開始します。



設定メニューの探査モードボタンまたはピンポイント探知/検知ボタンを押して、探知画面に戻ることができます。

設定メニューは、最後にアクセスした設定を記憶するため、次に設定ボタンを押したときにその設定に戻ります。

高度な設定へのアクセス

1. 設定ボタンを押すと、「高度な設定」があるトップレベルの設定に移動します。
2. 設定ボタンを長押し (2秒) すると、アイコンの下に線が表示されている「高度な設定」が選択されます。



3. トップレベルの設定に戻るには、「設定」ボタンを長押し (2秒) します。

設定メニューは最後にアクセスした高度な設定を記憶しているため、次に設定ボタンを押したときに、その設定に戻ることができます。

ノイズキャンセル



検出器は、送電線、電気機器、近くで動作している他の検出器からの電氣的干渉により、ノイズが発生することがあります。検出器はこの干渉を、一貫性のない不規則な検出と解釈します。

ノイズキャンセルの設定で、ノイズキャンセルチャンネルを変更することができます。これにより、ノイズの発生源に反応しにくいように、検出器の送信周波数をわずかにシフトさせます。

ノイズキャンセリングは、可聴域の検知ノイズレベルとピンポイント探知の性能の両方に影響します。

周波数調整はローカルで行われ、この設定の変更によって影響を受けるのは、現在の探査モードプロファイルのみです。

ノイズキャンセルの設定は、-9~9の範囲で19チャンネルあります。すべての探査モードにおいて、初期値は0 [ゼロ] に設定されています。

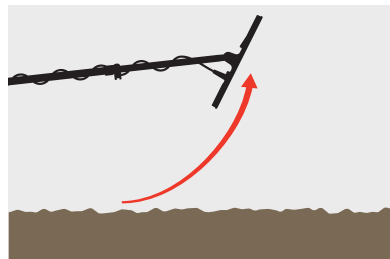
! 周波数を変更するたびにノイズキャンセルを実行 (ページ 25) します。

i ノイズキャンセリングは、「オート」が推奨されています。

自動ノイズキャンセル

自動ノイズキャンセルは、すべての周波数チャンネルを自動的にスキャンして聞き取り、干渉の少ないチャンネルを選択します。

1. コイルを地面から離し、静止させます。



2. 設定ボタンを押し、ノイズキャンセルの設定に移動します。



3. 承認/排除ボタンを押して、自動ノイズキャンセルの処理を開始します。EQUINOX 700でも、マイナス (-)、プラス (+) ボタンで自動ノイズキャンセルを開始することができます。



4. 自動ノイズキャンセルの進行状況は、識別スケールと上昇する連続音で表されます。

この処理が完了 (約5秒後) すると、ターゲットIDディスプレイに自動選択されたチャンネルが表示され、確認音が3回鳴ります。

i 注: 自動ノイズキャンセルは、いくつかの基準に基づいて「最も静かな」チャンネルを選択しますが、選択されたチャンネルにはまだ可聴ノイズが残っている可能性があります。

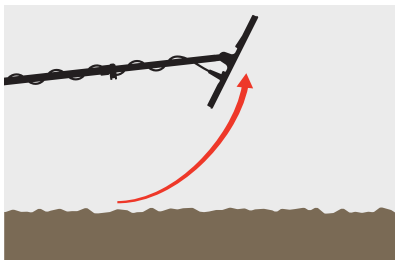
さらにノイズを減らすには、感度の調整を検討してください。

ノイズキャンセル (続き)

手動ノイズキャンセル*

ノイズキャンセルを手動で設定すると、各チャンネルを聴いて干渉の少ないチャンネルを選択することができます。他の検出器に近接して検出する場合や、電氣的干渉の多い場所で検出する場合に有効です。

1. コイルを地面から離し、静止させます。



2. 設定ボタンを押し、ノイズキャンセルの設定に移動します。



3. マイナス (-) またはプラス (+) ボタンでチャンネルを調整します。



ターゲットIDディスプレイにチャンネルが表示されます。一時停止して干渉レベルを聞きます — この間、検出器は静止させてください。

4. 最も干渉の少ないチャンネルを選ぶまで続けます。

連続自動ノイズキャンセル

ノイズキャンセル設定で承認/排除ボタンまたはマイナス(-)/プラス(+)ボタンを押し続けると、連続自動ノイズキャンセルが開始され、ボタンが離されるまで複数のノイズキャンセルサイクルが長時間継続されます。各ノイズキャンセルサイクルの後、すべてのサイクルを通じて測定された最良のノイズキャンセルチャンネルが表示されます。

連続自動ノイズキャンセルを使用してノイズキャンセルを長時間実行すると、時間によって変化するEMI発生源が存在する場所で最もノイズが少ないチャンネルを選択するのに役立ちます。

* EQUINOX 900のみ

対土壤バランス調整



対土壤バランス調整設定は、鉙物の付着による誤信号を除去するために、検出器を現地の地盤に合わせてキャリブレーションします。

対土壤バランス調整の設定範囲は-9～99で、公園、野原、浜辺モードのすべての探査プロファイルのデフォルトは0 [ゼロ] です。

対土壤バランス調整の追跡は、金*モードでの推奨およびデフォルトの対土壤バランス調整方法です。

対土壤バランスの調整はローカルで行われ、この設定の変更によって影響を受けるのは、現在の探査モードプロファイルのみです。

i 公園、野原、浜辺モードでは、金鉙よりも鉙物の量が少ないため、対土壤バランス調整の初期設定は0 (ゼロ) を推奨します。

ただし、地面からのノイズ信号が多い場合 (感度を低く設定している場合) は、対土壤バランスの自動調整の使用を推奨します。

対土壤バランスの自動調整でグラウンドノイズが減少しない場合 (ミネラル分の多い地盤や塩分の多い地盤など)、標準的な上下運動ではなく、コイルを左右にスイープさせて、対土壤バランスの自動調整を繰り返してください。

対土壤バランスの自動調整

対土壤バランスの自動調整は、自動的に最適な対土壤バランス調整の設定を行います。この手順はユーザーが行う必要があります。

対土壤バランス調整方法で推奨されているのは対土壤バランスの自動調整の使用です。

1. 設定ボタンを押し、対土壤バランス調整の設定に移動します。



2. 対土壤バランスの自動調整処理の間、承認/排除ボタンを長押しします。

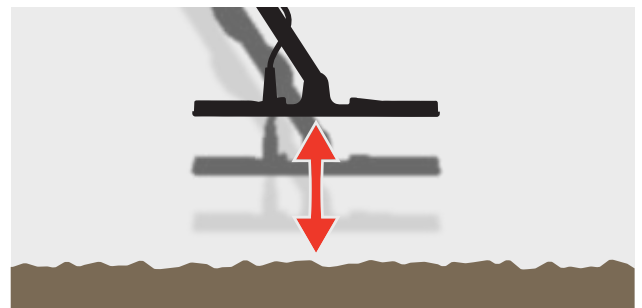
LCD上の対土壤バランス調整の追跡アイコンが高速で点滅し始めます。



(点滅)

3. ターゲットが何も無い土の上で、コイルを繰り返し上下させます。対土壤バランス調整の数値がターゲットIDディスプレイ上で動的に更新され、オーディオが土壤に反応して減少していく様子を観察してください。

ターゲットIDディスプレイの値が数字に落ち着くと反応が安定し、オーディオの反応が最小になります。



4. 承認/排除ボタンを離します。

* EQUINOX 900のみ

対土壤バランス調整 (続き)

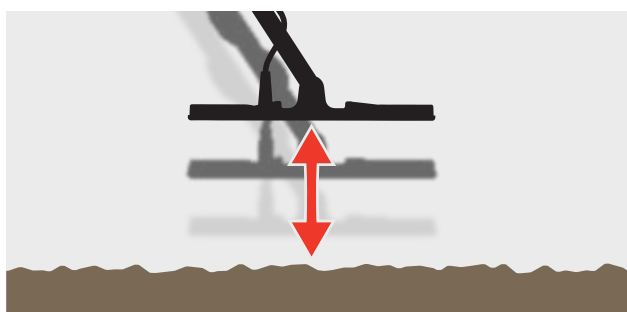
対土壤バランスの手動調整

対土壤バランス調整は、グランドシグナルの量が最小になるまで手動で調整することができます。

1. 設定ボタンを押し、対土壤バランス調整の設定に移動します。



2. ターゲットが何も無い土の上で、コイルを繰り返し上下させます。



オーディオ反応を聞いて、対土壤バランス調整の結果を解釈してください。トーンが低い場合は対土壤バランス調整の値を大きくする必要があり、高い場合は値を小さくする必要があります。

3. マイナス (-)、プラス (+) ボタンを押し、グランドシグナルが最小になるまで、対土壤バランス調整の値を手動で変更します。対土壤バランスの自動調整値は、ターゲットIDディスプレイに表示されます。



対土壤バランス調整の追跡

対土壤バランス調整の追跡が有効な場合、検出器は検出中、自動的に対土壤バランス調整を連続して調整します。これにより、対土壤バランス調整が常に正しく設定されるようになります。

i 対土壤バランス調整の追跡は、金*モードのデフォルトかつ推奨の方法です。

浜辺モード2を水中 (海水中) で使用する場合にも、対土壤バランス調整のトラッキングは有効です。

1. 設定ボタンを押し、対土壤バランス調整の設定に移動します。



2. 承認/排除ボタンを押すと、対土壤バランス調整の追跡のオン/オフが切り替わります。



対土壤バランス調整の追跡がオンの場合、LCDに追跡インジケータが表示され、バックグラウンドで対土壤バランス調整が自動追跡されます。

* EQUINOX 900のみ

音量調整



音量調整では、検出信号、しきい値トーン、確認トーンなど、すべての検出器オーディオの大きさを変更することができます。

音量調整の変更はグローバルで行われます。

音量調整の設定範囲は、0 (オフ/ミュート) ~25で、初期設定は20です。

音量を調整する

1. 設定ボタンを押し、音量調整の設定に移動します。



2. マイナス (-)、プラス (+) ボタンで、大きな信号 (近くにある・大きなターゲット) で耳を痛めないように、快適な音量まで上げたり下げたりできます。



トーン音量(高度な設定)



トーン音量設定は、トーン領域ごとに異なる音量を設定することができます。鉄があちこちにある場所で検出するときに便利な機能です。

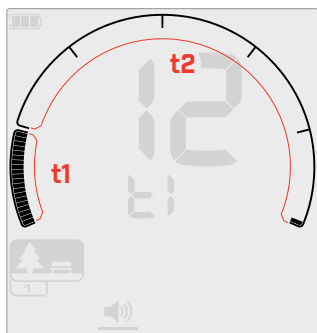
トーン音量の調整はローカルで行われ、この設定の変更によって影響を受けるのは、現在の探査モードプロファイルのみです。

トーン音量の設定は、デフォルトでは非鉄のトーンは25、鉄のトーンは選択した探査モードに応じて音量が小さくなっています。

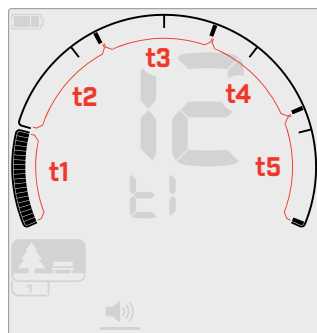


トーン音量は、金*モードおよびターゲットトーンが1トーンに設定されている場合は使用できません。

トーン領域の数は、ターゲットトーンの設定により定義され、最大5つのトーン領域まで設定できます。詳細な情報については、「[ターゲットトーン数の変更](#)」ページ上 34を参照してください。



ターゲットトーンを2に設定した場合の、トーン領域1 (t1) のトーン音量調整画面。識別スケールは2つの領域に分かれています。



ターゲットトーンを5に設定した場合の、トーン領域1 (t1) のトーン音量調整画面。識別スケールは5つの領域に分かれています。

トーン音量の調節



トーン音量を調整する前に、お好みのターゲットトーンの設定を選択します (ページ 34)。

これは、トーン音量の変更が、アクティブなターゲットトーン設定にのみ適用されるためです。



注: EQUINOX 700では、鉄トーン (t1) のみ調整可能です。

1. 設定ボタンを押し、音量調整の設定に移動します。



2. 設定ボタンを長押し (2秒) して、「音量の高度な設定」を選択します。

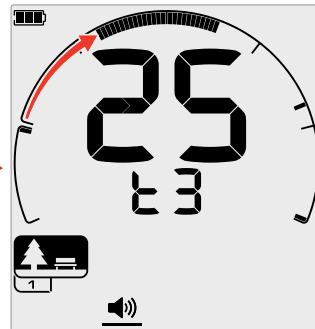
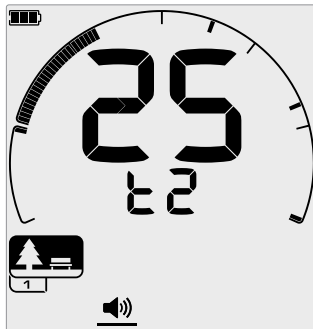


3. 周波数ディスプレイには、現在選択されているトーン領域 (例:t1) が表示され、識別スケール上のトーン領域セグメントがオンになります。

マイナス (-) またはプラス (+) ボタンで、選択したトーン領域の音量を調整します。



4. もう一度承認/排除ボタンを押すと、次のトーン領域に進みます。



5. すべてのトーン領域が調整されるまで繰り返します。



ゴミの多い場所や鉄の多い場所では、鉄トーン領域の音量をちょうど聞こえる程度に設定し、好みのターゲットが現れるトーン領域の音量を大きくして、ターゲットを強調します。

こうすることで、鉄ゴミがどれくらい検出されているのかがわかります。鉄系のゴミが多い場合は、ゆっくり探知して、目的のものを見逃さないようにしましょう。鉄系ゴミがほとんど聞こえない場合は、より早く検出することができます。

* EQUINOX 900のみ

しきい値レベル



しきい値トーンは、微弱なターゲット反応を聞き取るのに有効な一定の背景音です。

しきい値レベルの変更はグローバルに行われ、金*モードでは個別に設定されます。

しきい値レベルの設定範囲は0～25です。

公園/野原/浜辺モードのしきい値レベルのデフォルトは0 (オフ) です。金*モードのしきい値レベルのデフォルトは12です。

しきい値レベルの調整

1. 設定ボタンを押し、しきい値レベルの設定に移動します。



2. マイナス (-) またはプラス (+) ボタンで、しきい値レベルを調整します。調整はすぐに反映されるため、オーディオを聞きながらお好みのレベルを選択してください。



EQUINOX 900では、しきい値ピッチの高度な設定によって、しきい値トーンのピッチを高くしたり低くしたりすることができます (ページ 33)。

「基準」しきい値トーン

公園、野原、浜辺モードでは、簡略化された「基準」しきい値トーンが使用されます。金*モードで使用される「正確な」しきい値トーンとは異なり、「基準」しきい値は、排除されたターゲットIDが検出されると空白になる単純な連続的なバックグラウンドトーンです。

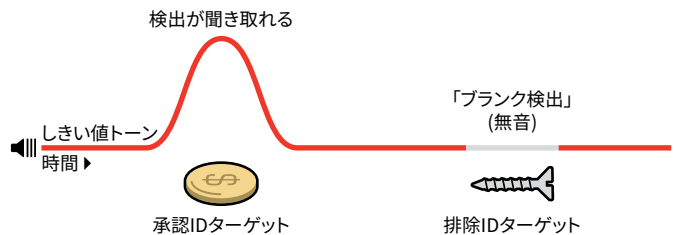
基準しきい値がなければ、排除されたターゲットの検出は無音となり、ターゲットの存在を認識することはできません。

地中に大量のゴミがあることが多い一般的な貴重品探知場所では、継続的にオーディオが途切れると邪魔になることがあるため、オーディオが途切れてもいいという場合以外は、しきい値レベルの設定を0 (オフ) にすることをお勧めします。

基準しきい値のブランキング

排除IDが検出されるとしきい値トーンは「ブランク」(無音) になり、排除されたターゲットがコイルの下にあることを示します。

しきい値レベルが0 (オフ) に設定されている場合、排除IDのブランキングは聞こえません。



* EQUINOX 900のみ

しきい値レベル(続き)

「正確な」しきい値トーン

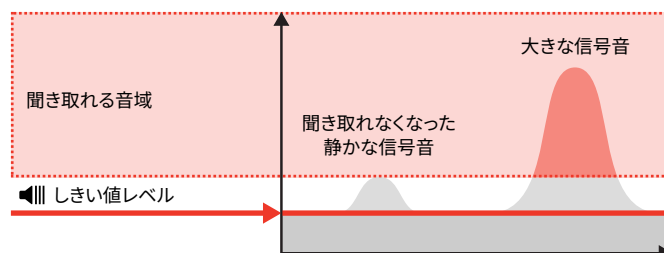
金*モードでは「正確な」しきい値トーンが使用され、特に小さな金塊のような金検出には理想的です。

公園、野原、浜辺モードで使用される簡略化された「基準」しきい値トーンとは異なり、「正確な」しきい値は連続した背景トーンで微弱な信号の可聴性を改善するために調整でき、ターゲット信号強度や構成に応じて音量が変化することでターゲット情報をより多く提供することができます。

「正確な」しきい値は、ノイズの多い土壌で微弱な金信号を強調することができます。しきい値レベルと音量調整の設定を一緒に調整することで、目的のオーディオ反応をよりコントロールすることができます。

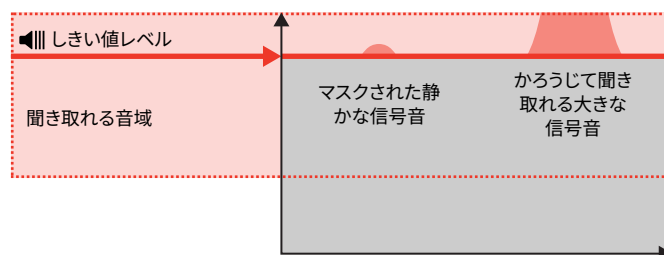
低すぎる場合

しきい値レベルが低すぎると、小さなターゲットや深いターゲットによるわずかな変化では聞き取れない場合があります。可聴レベル以下に調整すると、無音動作が保証されますが、小さいターゲットや深いターゲットのオーディオ反応がマスクされる可能性があります。



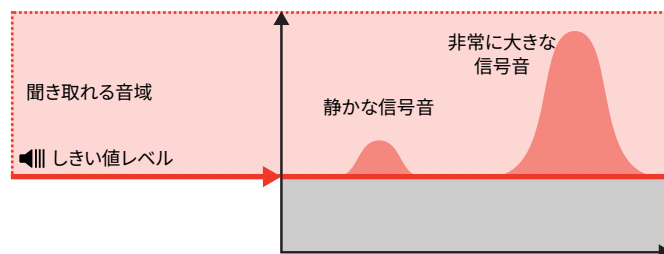
高すぎる場合

しきい値レベルが高すぎると、しきい値のハム音より上のかすかなターゲットが聞こえにくくなります。



ちょうどいい場合

しきい値レベルを、かろうじて聞こえる程度のハム音に調整します。これにより、ターゲットの存在を示す可能性のある信号反応のバリエーションが強調されます。土壌の状態が変化した場合、しきい値レベルのさらなる調整が必要となる場合があります。



* EQUINOX 900のみ

しきい値ピッチ*(高度な設定)



このEQUINOX 900の高度な設定では、しきい値トーンを高音にするか低音にするかを設定することができます。あなたの聴力に最も適したピッチにレベルを設定してください。

しきい値ピッチの変更はグローバルに行われ、金*モードでは個別に設定されます。

しきい値ピッチの設定範囲は1~25です。

公園/野原/浜辺モードのしきい値レベルのデフォルトは4です。
金*モードのしきい値ピッチのデフォルトは11です。

しきい値ピッチの調整

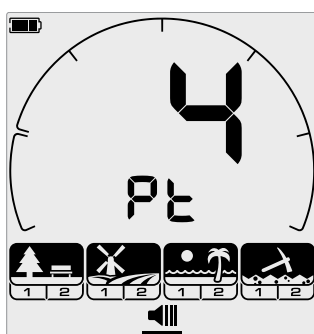
1. 設定ボタンを押し、しきい値レベルの設定に移動します。



2. 設定ボタンを長押し (2秒) して、しきい値ピッチの高度な設定を選択すると、周波数ディスプレイに「Pt」と表示されます。



3. プラス (+) を押し、しきい値トーンを高ピッチに設定することができます。マイナス (-) を押し、しきい値トーンを低ピッチに設定することができます。調整した内容は、自動的に保存されます。



しきい値ピッチの調整画面。

* EQUINOX 900のみ

ターゲットトーン



ターゲットトーン設定は、さまざまな種類のターゲットに対して聞こえるさまざまなトーンの数と、高度な設定のための調整可能なトーン領域の数を制御

します。

ターゲットトーンは、ターゲットIDの範囲を個別のトーン領域に分割することができます。そのため、ターゲットとなる情報を大なり小なり聞くことができます。

ターゲットトーンの設定には、1、2、5、すべてのトーン (At)、深度 (dP) のオプションがあります。



金*モードは、ターゲットトーンの設定が1のみで、変更できません。

ターゲットトーンの調整はローカルで行われ、この設定の変更によって影響を受けるのは、現在の探査モードプロファイルのみです。

ターゲットトーン設定の選択

1トーン

ターゲットの反応は、ターゲットIDに関係なく、同じピッチの長音と短音を鳴らします。

2トーン・5トーン

ターゲット反応は、ターゲットIDに応じて、2種類または5種類のピッチで長短のビーブ音を発します。

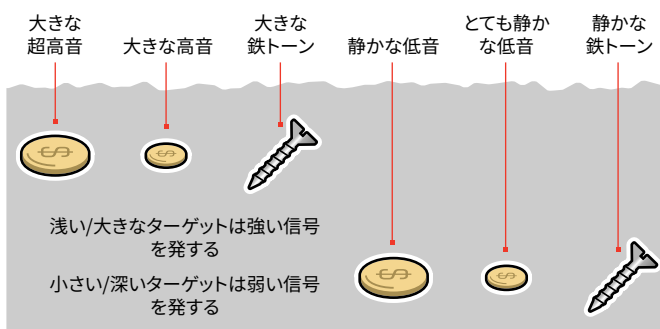
すべてのトーン (At)

ターゲット反応は、ターゲットIDごとに異なるピッチで長短のビーブ音を発します。

深度 (dP)

ターゲット反応は、ターゲットの信号強度に比例して、ピッチと音量が変化します。すべてのターゲットは、ターゲットの信号強度に比例して音量が大きくなるため、大きいターゲットや浅いターゲットは、小さいターゲットや深いターゲットよりも大きな音で聞こえます。

導電性のターゲットはピッチが大きくなり、鉄のターゲットは一定の低ピッチになります。



* EQUINOX 900のみ

ターゲットトーン数の変更

1. 設定ボタンを押し、ターゲットトーンに移動します。



2. マイナス (-) とプラス (+) ボタンで、新しいターゲットトーンの設定を選びます。



設定内容はターゲットIDナンバーに表示されます。



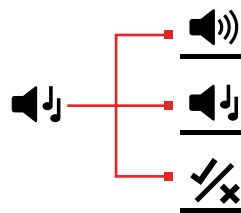
1トーン 2トーン 5トーン すべてのトーン (At) 深度 (dP)

ターゲットトーンの依存性

ターゲットトーンの設定を変更すると、以下の高度な設定のオプションも変更されます。

- トーン音量
- トーンピッチ
- トーンブレイク

このため、トーン音量、トーンピッチ、トーンブレイクの設定を行う前に、ターゲットトーンの設定を行ってください。



トーンピッチ(高度な設定)



この高度な設定では、特定の種類のターゲットに対するターゲット反応のピッチを調整することができます。これにより、お好みのターゲットが聞き取りやすくなります。

各トーン領域のピッチを調整することができます。これは、類似のターゲットIDを持つ共通のターゲットを区別するのに役立つ場合があります。

トーンピッチの設定範囲は、1~25です。

トーンピッチの調整はローカルで行われ、この高度な設定の変更によって影響を受けるのは、現在の探査モードプロファイルのみです。

EQUINOX 700では、最初のトーンピッチのみを調整することができます。EQUINOX 900は、すべてのトーンピッチを調整することができます。



金*モード、および探査モードが深度 (dP) ターゲットトーンの設定の場合は、トーンピッチは使用できません。



トーンピッチを調整する前に、お好みのターゲットトーンの設定を選択します (ページ 34)。

これは、トーンピッチの変更は、アクティブなターゲットトーンの設定にのみ適用されるためです。

トーンピッチの調整 — 1、2、5トーン

1. 設定ボタンを押し、ターゲットトーンの設定に移動します。



2. 設定ボタンを長押し (2秒) して、「トーンピッチの高度な設定」を選択します。



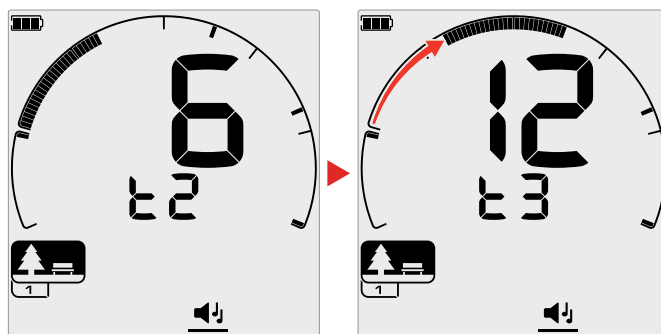
3. 周波数ディスプレイには、現在選択されているトーン領域 (例:t1) が表示され、識別スケール上のトーン領域セグメントがオンになります。マイナス (-) またはプラス (+) ボタンで、選択したトーン領域の音量を調整します。

プラス (+) を押して、ターゲットトーンを高ピッチに設定します。マイナス (-) を押すと、ターゲットピッチを低く設定できます。



4. 次のトーン領域 (t2など) のピッチ調整に進むには、承認/排除ボタンを押します。

注: ターゲットトーンの設定が1に設定されている場合、トーン領域は1つ (t1) のみです。



* EQUINOX 900のみ

トーンピッチ(高度な設定)(続き)

トーンピッチの調整 – すべてのトーン

すべてのトーン (At) が選択されている場合、トーンピッチの高度な設定は2トーン設定と同様の動作をしますが、各リージョンのすべてのターゲットが設定したピッチで鳴らすのではなく、この値はそのリージョンの最初のIDのピッチを設定します。その後、他のIDの範囲でもピッチが上昇していきます。

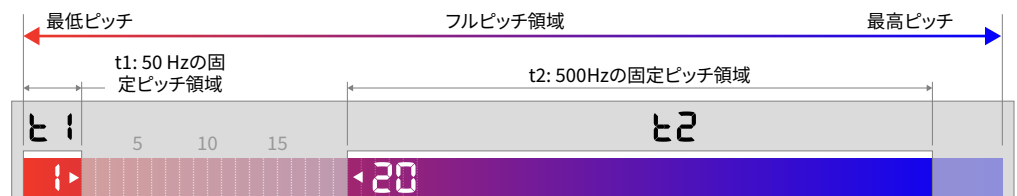
- 鉄領域のピッチは50Hzの範囲です。
- 非鉄領域のピッチは500Hzの範囲です。

鉄系ターゲットから非鉄系ターゲットまで連続したピッチの範囲を作成するための始点を設定したり、鉄系ターゲットと非鉄系ターゲットをより区別するためにピッチ間隔を作成したりすることが可能です。

例では、ピッチ間隔を加えることで、鉄系ターゲットと非鉄系ターゲットの違いを明確に聞き分けることができることを紹介しています。

トーンピッチ間隔:デフォルト (1, 20)

鉄系ターゲットは非常に低い音になります。非鉄系ターゲットは、同じようなターゲットIDを持つ鉄ターゲットよりも明らかに高い音で聞こえます。



トーンピッチ間隔:最大 (1, 25)

鉄系と非鉄系のターゲットのピッチの差が大きいと、非常に区別しやすくなります。



トーンピッチ間隔:小 (11, 12)

鉄系ターゲットと非鉄系ターゲットでピッチに明確な差はありません。オーディオだけでは区別がつかないこともあります。



承認/排除



特定の種類のターゲットを検出したり無視したりする独自の識別パターンを作成できるため、より多くの貴重品を、より少ないゴミ量で掘り出すことができます。

ターゲットは、ターゲットID番号と識別スケール上の個々のセグメントで表されます (ページ 58)。ターゲットIDセグメントをオン/オフすることで、ターゲットを検出 (承認) または無視 (排除) することができます。オンになっているターゲットIDはすべて承認され、オフになっているターゲットIDはすべて排除されます。

承認されたセグメントと排除されたセグメントの組み合わせを識別パターンと呼びます。

識別スケールは、-19から99の範囲で設定されています。

識別パターンはローカルであり、現在の探査モードプロファイルの識別パターンのみが変更されます。

識別パターンの作成

1. 設定ボタンを押し、承認/排除の設定に移動します。



2. マイナス (-) とプラス (+) ボタンで、変更したいターゲットIDに移動します。1回押すごとに時計回り/反時計回りに1セグメントずつ移動します。



3. 現在選択されている識別セグメントがゆっくり点滅し、正確なターゲットID番号が表示されます。

承認/排除ボタンを押すと、ターゲットIDのオン/オフが切り替わります。



また、承認/排除ボタンを長押しすることで、一連のセグメントを高速にオン/オフすることができます。例えば、セグメント5が選択されてオフになっている場合、承認/排除ボタンを長押ししてそのセグメントをオンにし、そのままボタンを押し続けます。セレクターは自動的に次のセグメントに移動し、それをオンにします。停止させるには、ボタンから手を離します。

4. 識別パターンが完成するまで、承認/排除ボタンでターゲットIDをオン/オフしながら、識別スケールをナビゲートしてください。

検出時にターゲットを承認または排除する

識別パターンに対応するターゲットIDが承認の場合、ターゲット検出時に排除することができます。

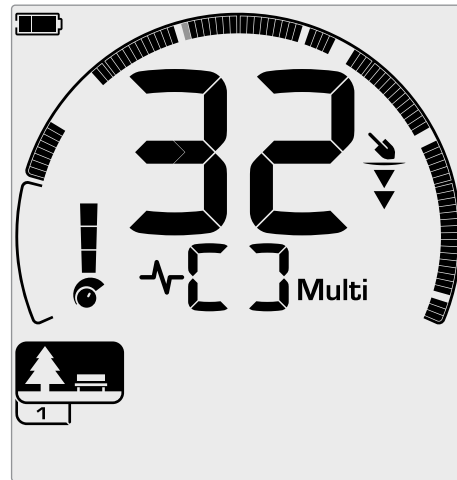
現在ターゲットIDを受付中で、検知した場合は、オーディオ反応があり、ターゲットIDセグメントが点滅し、ターゲットID番号が表示されます。

検出したターゲットを排除する場合は、承認/排除ボタンを押します。



そのターゲットIDを持つターゲットは排除され、聞こえなくなります。

最後に排除されたターゲットは、再度承認/排除ボタンを押すことで、他の検出がない限り、瞬時に再承認することができます。



ターゲットIDが32の非鉄金属ターゲットが検出された場合の例。識別スケールのセグメント32が点滅します。

排除されたターゲットIDの受け入れは、探知画面から直接行うことはできません。排除されたターゲットIDは、設定メニューの承認/排除設定で識別パターンを調整し、再承認する必要があります。

すべての金属

すべての金属は、検出器の電源が入るたびにデフォルトでオフになります。



すべての金属ボタンを押して、すべての金属のオン/オフを切り替えます。

すべての金属がオンの場合、現在の識別パターンが無効となり、すべての金属が検出されるようになります。

トーンブレイク(高度な設定)



この高度な設定では、各トーン領域の終了位置を移動させることができます。

トーンブレイクの一般的な使用法は、鉄の音が発生するポイントを手動で操作することです。本設定の使用例の1つはコークスです。コークスとは、通常ターゲットIDが1の、好ましくない非鉄の「厄介な」ターゲットです。

鉄系トーンエンドの位置を2まで上げると、コークスが鉄系レンジに移動し、鉄系の反応が得られるようになります。ただし、導電性の低いターゲットの中には、「悪い」鉄系ターゲットと同じような反応を示すものもあるので注意が必要です。

また、他のトーン領域の終了位置を調整することで、導電率の異なるターゲットの区別をより明確にすることができます。

公園、浜辺モードではターゲットID-19~0が、野原モードでは-19~4が初期値で鉄系に設定されています。

トーンブレイクの調整はローカルで行われ、この高度な設定の変更によって影響を受けるのは、現在の探査モードプロファイルのみです。

i 金*モード、またはターゲットトーンが1トーンに設定されている場合、トーンブレイクは使用できません。

トーンブレイクの調整

i トーンブレイクを調整する前に、好みのターゲットトーンの設定を選択します (ページ 34)。

これは、トーンブレイクの変更がアクティブなターゲットトーン設定にのみ適用されるためです。

EQUINOX 700では、鉄のトーンブレイク位置 (t1) のみを調整することができます。EQUINOX 900では、4つのトーンブレイク位置 (t1、t2、t3、t4) を調整することが可能です。

1. 設定ボタンを押し、承認/排除の設定に移動します。



2. 設定ボタンを長押し (2秒) して、「トーンブレイクの高度な設定」を選択します。



3. 現在選択されているトーン領域は、周波数ディスプレイに表示されます (例:t1)。ターゲットIDディスプレイは、トーン領域のエンドポイントの現在値 (例:0) を表示し、対応するターゲットIDセグメントがゆっくりと点滅します。
4. マイナス (-) とプラス (+) ボタンで、終了位置として使用したいターゲットIDに移動します。1回押すごとに時計回り/反時計回りに1セグメントずつ移動します。



5. 次のトーン領域の終了位置 (例:t2) の調整に進むには、承認/排除ボタンを押します。



注: 最後のトーン領域の終了位置は常に99であるため、調整することはできません。

* EQUINOX 900のみ

回復スピード



回復スピード設定は、あるターゲットを検出してから、別のターゲットを検出するまでの時間を設定します。

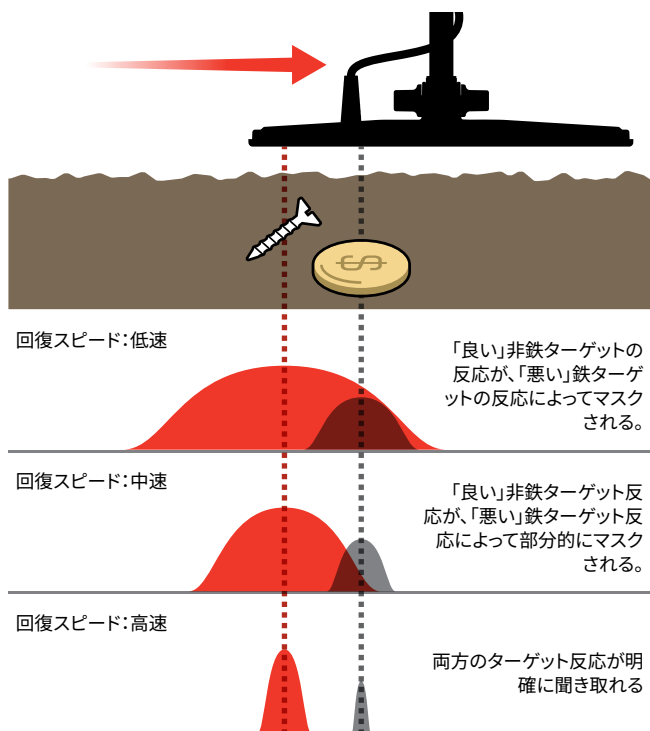
回復スピードを上げることで、近くにある複数のターゲットを区別して検出することができます。ゴミが多い場所では、大きな鉄ゴミの中から小さな良いターゲットを見つけるのに役立ちます。

EQUINOX 700の回復スピードは、0~4です。

EQUINOX 900の回復スピードは、0~8です。

回復スピードの調整はローカルで行われ、この設定の変更によって影響を受けるのは、現在の探査モードプロファイルのみです。

高速なターゲット回復スピードを使用すると、困難なターゲットを見つける能力は向上しますが、ターゲットID感度が低下し、検出深度が浅くなります。



回復スピードの調整

回復スピードを初めて調整する場合は、いくつかのターゲットを重ねて配置し、回復スピードの設定によって検出器がどのように反応するかをテストしてください。

1. 設定ボタンを押し、回復スピードの設定に移動します。



2. マイナス (-) とプラス (+) ボタンで、回復スピードを減少または増加させることができます。調整した内容は、自動的に保存されます。



EQUINOX 700/900の回復スピード対比

両機種の回復スピード対比は以下の通りです。EQUINOX 700はEQUINOX 900に比べ、調整単位が少なく、最大回復スピードが遅いです。

EQUINOX 900	1	2	3	4	5	6	7	8
EQUINOX 700		1		2		3		

スイングレート

一般的なスイングレートは、右から左へ2~3秒程度が良いとされています。回復スピードが高いと、一般的に多くのターゲットを見逃すことなく、より速い速度でスイングすることができます。

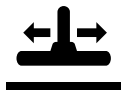
同じスイングレートで回復スピードを高くすると、グラウンドノイズを除去しやすくなりますが、検出深度が下がります。

海辺や水中での探知でグラウンドノイズが大きい場合は、回復スピードを速くしてノイズを軽減してみてください。

同じスイングレートで回復スピードを下げると、検出深度は上がりますが、ノイズが増える可能性があります。

回復スピードとスイングレートの両方を変化させることで、グラウンドノイズを最小化することができます。

鉄バイアス(高度な設定)



鉄バイアスは、鉄分を多く含むターゲット (例: 錆びた釘や王冠のボトルキャップなど) を鉄ターゲットとして正しく分類し、より簡単に排除できるようにする機能です。

鉄バイアスは、動作周波数がマルチに設定されている場合のみ有効です。

鉄バイアスの調整はローカルで行われ、この設定の変更によって影響を受けるのは、現在の探索モードプロファイルのみです。

EQUINOX 900の鉄バイアス範囲は-1~9です。

EQUINOX 700の鉄バイアス範囲は-1~3です。

注: EQUINOX 600、800をお使いの方は、700、900のモデルでは鉄バイアスの設定と名称が同じでないことにご注意ください。

鉄バイアスのしくみ

すべての鉄系ターゲットは、鉄系と非鉄系の反応の組み合わせを生成します。大きな鉄系のターゲットには、より強い非鉄系の反応を示すことがあります。隣接する鉄系ターゲットと非鉄系ターゲットが同じような反応を示すことがあります。

鉄バイアス設定の選択

検出または無視したいターゲットの種類に応じて、鉄バイアス設定を設定します。

鉄バイアスの設定値を低くする

鉄のゴミに混じって非鉄のターゲットを見逃したくない場所では、鉄ターゲットを多く検出し、望ましい非鉄ターゲットと誤認してしまうため、低めの鉄バイアス設定 (EQUINOX 900では-1~4、EQUINOX 700では-1~2) を推奨しています。

鉄バイアスを低く設定した場合、望ましいターゲットを見逃さないために、すべての金属モードでの検出を推奨します。

鉄バイアスの設定値を高くする

鉄のゴミが密集している環境や、王冠ボトルキャップの除去には、高めの鉄バイアス設定 (EQUINOX 900では5~9、EQUINOX 700では3) が推奨です。

鉄バイアスを高く設定する場合は、鉄マスキング識別パターンを使用して、できるだけ多くの鉄検出をマスクして検出することをお勧めします。

鉄バイアスの調整

鉄バイアス設定は、幅広い鉄系ターゲットに対するトーンおよびターゲットIDの反応性を調整することができます。

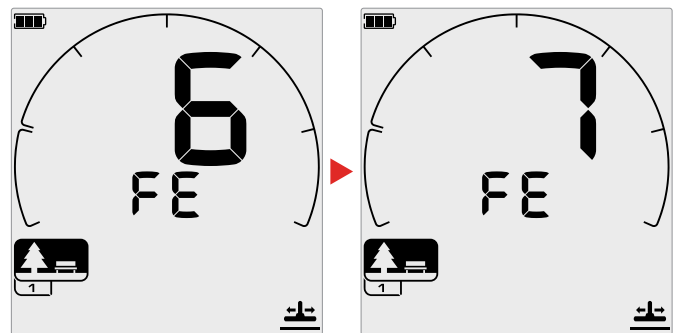
1. 設定ボタンを押し、回復スピードの設定に移動します。



2. 設定ボタンを長押し (2秒) して、鉄バイアスの高度な設定を選択します。周波数ディスプレイに「FE」が表示されます。



3. マイナス (-) とプラス (+) ボタンで、鉄バイアスの設定を調整します。調整した内容は、自動的に保存されます。



EQUINOX 700/900の鉄バイアス設定対比

両機種の鉄バイアス設定値の対比は以下の通りです。EQUINOX 700はEQUINOX 900に比べ、調整単位が少なくなっています。

EQUINOX 900	-1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
EQUINOX 700	-1	0	1	2	3						

ターゲット識別、ピンポイント探知、リカバリー

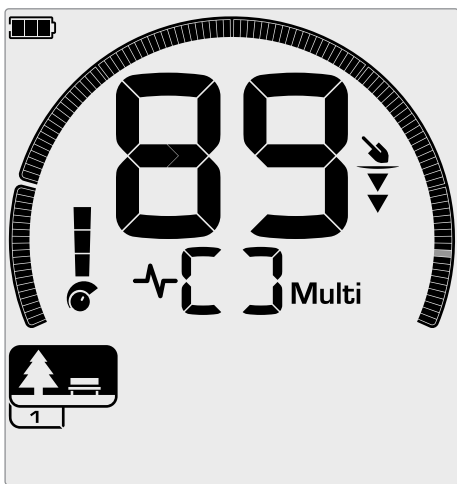
ターゲットの識別

ターゲット識別番号

ターゲットID (ターゲット識別) 番号は-19~99、鉄系 (鉄) ターゲットは-19~0です。

ターゲットを検知すると、ディスプレイのターゲット識別番号フィールドに数字が表示されます。これは、対象物が鉄系か非鉄系かを示すもので、素早く簡単に識別することができます。

例えば、米国の25セント硬貨は、89のターゲットID番号が割り振られています。つまり、IDが89のTargetが検出されれば、それが米国の25セント硬貨である可能性が高いということです。



ターゲットが検出されると、ターゲットID番号が表示されます。この例では、浅い場所にある米国の25セント硬貨を検出しています。検出されると、対応するターゲットIDセグメントが点滅します (点滅セグメントはグレーで表示される)。

最後に検出されたターゲットIDは5秒間、または別のターゲットが検出されるまでディスプレイに表示されたままになります。

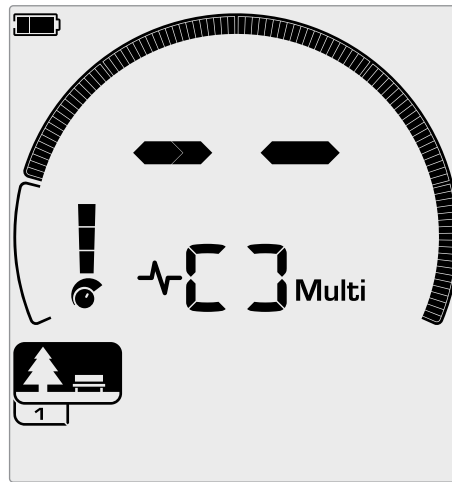
注: 非鉄ターゲットの中には、隣接する鉄ターゲットがある場合、負のIDを表示するものがあります。

ターゲットID感度

Multi-IQテクノロジーは、ターゲットID感度を高め、特に鉱物の多い地盤で検出性能を向上させます。良質の地盤では、シングル周波数で十分な性能を発揮しますが、深度や安定したターゲットIDは地盤ノイズにより制限されます。

Multi-IQ同時マルチ周波数は、非常に安定したターゲット信号で最大深度を達成します。鉱物の多い地盤では、シングル周波数ではターゲット信号とグラウンドシグナルを効果的に分離することができず、結果が低下します。Multi-IQは、ターゲットIDの精度を最小限に抑えながら、深度方向の検知を行います。

検出されなかったり、検出器が排除したターゲットの上を通過した場合、ディスプレイには大きなダッシュ記号が2つ表示されます。



検出されなかった場合、ターゲット識別番号フィールドに大きなダッシュ記号が2つ表示されます。

識別スケール

円形の識別スケールは、119のターゲットIDに対応しています。承認 (検出) されたターゲットは可視セグメントとして表示され、そのIDのターゲットが検出されると点滅します。排除された (非検出または「ブランキング」された) ターゲットはオフになります。

識別セグメントをオン (承認) またはオフ (排除) して、識別パターンを作成します。

識別スケールに沿って表示される目的のターゲットとそうでないターゲットを、識別することができます。そのため、見つけたいターゲットからの信号だけが聞こえ、不要なターゲットは無視されます。

以下の方法で行うことができます。

- 検出されたターゲットを承認/排除ボタンで検出時に承認/排除することができます。「**検出時にターゲットを承認または排除する**」ページ上 37を参照してください。
- 設定メニューの「承認/排除」で識別パターンを作成します。「**識別パターンの作成**」ページ上 37を参照してください。

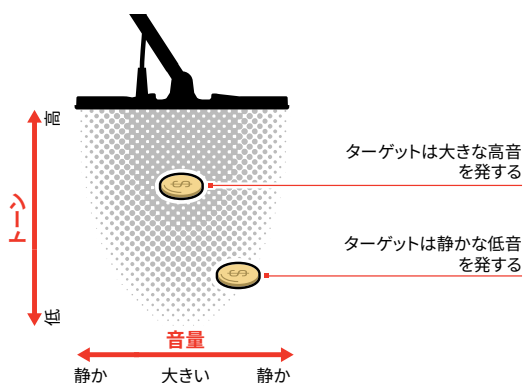
ピンポイント探知

ピンポイント探知は、埋設物の位置を素早く絞り込むことができ、掘る前に正確な位置を把握することができます。

ピンポイント探知には、2つの方法があります。

- ピンポイント探知機能を使用する（「**ピンポイント探知モードによるターゲットの位置確認 43**を参照
- 手動ピンポイント探知テクニックを使用する（「**手動でターゲットの位置を確認する 44**を参照

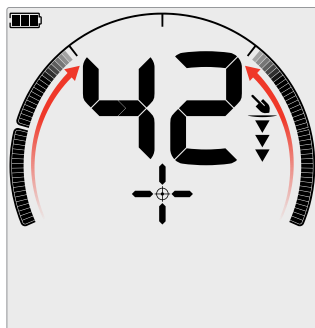
トーンや音量の違いから、ターゲットの位置や深さを特定することができます。



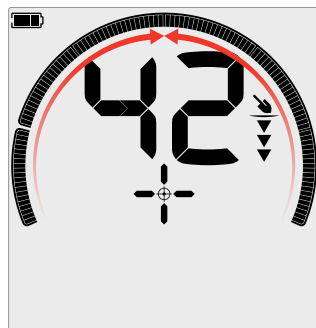
ピンポイント探知モードの可視化

ピンポイント探知をオンにすると、識別パターンが一時的に無効になります（つまりすべての金属が有効になります）。ピンポイント探知モードでは、動体検知もオフになるため、コイルが静止していてもターゲット信号が発生します。

コイルの中心線がターゲットに近づくと、外側から中心に向かって識別セグメントが埋まっていきます。識別セグメントがすべてオンの場合、ターゲットはコイルの中心線の真下になります。



ターゲット信号が弱い/中心がずれている：オンになっている識別セグメントが少ない。ターゲットはコイルの外側に近い位置にあります。



最も強いターゲット信号：すべての識別セグメントがオン。ターゲットはコイルの中心線の真下に位置しています。

ピンポイント探知モードによるターゲットの位置確認

1. コイルをおおよその目標位置から離し、ピンポイント探知ボタンを1回押してピンポイント探知モードをオンにします。ディスプレイにピンポイント探知インジケータの十字線が表示されます。



2. コイルを地面と平行に保ちながら、目標地点の上を2〜3回ゆっくりスイープします。より正確なピンポイント探知オーディオ反応が得られるよう、ピンポイント探知機能をキャリブレーションします。

3. 最も大きな信号を聞き、またはディスプレイのピンポイント探知視覚化を見て、ターゲットの中心を見つけます。

注：ピンポイント探知モードではターゲットIDが更新され続けるため、隣接するゴミ箱ではなく、正しいターゲットをピンポイント探知していることを確認できます。

注：ピンポイント探知機能は、スイープするたびに感度を下げ、ターゲット反応を徐々にマスクし、非常に狭いターゲット反応しか残らないようにします。

4. 識別スケールのセグメントがすべてオンの場合、ターゲットはコイルの中心より下に位置します。

ピンポイント探知がうまくいかない場合、またはピンポイント探知をオンにしたときに検出器のノイズが大きくなる場合は、ピンポイント探知をオフにしてからステップ1に戻り、ピンポイント探知の手順を繰り返してください。

ピンポイント探知(続き)

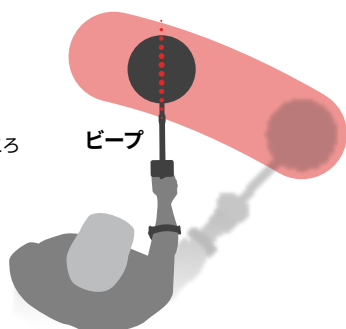
手動でターゲットの位置を確認する

ピンポイント探知を使わなくてもターゲットの位置を特定することは可能ですが、そのためには練習が必要です。この方法は、狙っている対象がゴミに囲まれている場合に必要となることがあります。

1. コイルを地面と平行に保ちながら、目的の場所をゆっくり横切るようにスイープします。
2. 最も大きなターゲット信号の反応を聞いて、ターゲットの中心を見つけます。
3. 位置をメモするか、靴や掘り出し物で土に線をつけておくとよいでしょう。
4. 片側に移動すると、最初の方向と直角にターゲットにコイルを渡すことができます。
5. 新しい位置で手順1と3を繰り返します。2本の仮想線が交差するところにターゲットがあります。

1-3

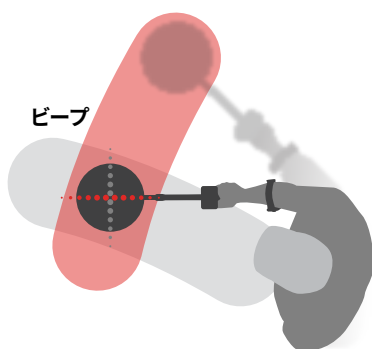
最も強い信号が聞こえるところに線を引いてください。



4-5

最初の位置と直角に立ち、これを繰り返します。

2本の線の交点が、ターゲットの正確な位置を示しています。



ヘッドホン、バッテリー、充電

無線ヘッドホン

ML 85無線ヘッドホン

Minelab ML 85低レテンシー無線ヘッドホンは、検出器に付属しています。ML 85ヘッドホンは、有線ヘッドホンとしても使用できます — 「有線ヘッドホン」 ページ上 47 を参照してください。

ペアリングやその他のヘッドホンのコントロールや機能の詳細については、ヘッドホンに付属の説明書を参照してください。

説明書は、www.minelab.com/support/downloads/product-manuals-guidesから、ダウンロードすることもできます。



Minelab ML 85無線ヘッドホン

無線ヘッドホンのペアリング

1. 検出器の無線オーディオボタンを長押し (2秒) して、無線ペアリングモードにします。



無線オーディオボタン

2. ML 85ヘッドホンの多機能ボタン (中央のボタン) を、LEDが赤と青に点滅するまで長押しします。
3. ヘッドホンは自動的に接続されます。検出器の無線オーディオインジケータは点灯したまま、ヘッドホンのLEDが3秒に1回、青く点滅します。

5分以内に接続されないと、無線オーディオは自動的にオフになります。

以前ペアリングしたヘッドホンの再接続

以前ペアリングしたヘッドホンが自動的に再接続されます。

1. 無線オーディオボタンを押すと、無線がオンになります。




無線オーディオボタン

2. ML 85ヘッドホンの多機能ボタン (中央のボタン) を押して、オンにしてください。
3. ヘッドホンは自動的に再接続されます。

無線オーディオインジケータ

無線オーディオがオンのときは、ディスプレイに無線オーディオインジケータが表示されます。その表示状態に応じて、現在の無線オーディオの接続状態を表示します。

 + 無線オーディオインジケータ

素早い点滅: 無線ペアリングモードが有効で、近くの無線ヘッドホンを検索しています。

点灯状態: 無線ヘッドホンがペアリングされ、接続されています。

ゆっくりな点滅: 以前にペアリングしたヘッドホンとの再接続を試みています。

有線ヘッドホン


無線ヘッドホン「ML 85」にはAUXケーブルが付属しており、有線ヘッドホンとして使用することも可能です。



Minelab ML 85無線ヘッドホン
(AUXケーブル接続時)。

標準的な3.5mm (1/8インチ) のヘッドホンも接続できますが、ヘッドホンコネクタのオーバーモールドは直径9mm (0.35インチ) 以下でないと防水ソケットに入りません。

有線ヘッドホンの接続

1. コントロールポッド背面のヘッドホンソケットからプラスチック製のダストキャップを外します。固い場合は、小さなコインを使って緩めることができます。
2. ヘッドホンをヘッドホンソケットに差し込みます。
 検出器LCDの右上にヘッドホンのアイコンが表示されます。

! ヘッドホンを使用しないときは、コントロールポッドの背面にある防水ダストキャップがしっかりとネジ止めされていることを確認してください。


EQUINOXでは、付属品のヘッドホンアダプターを使用することで、6.35mm (1/4インチ) のヘッドホンを使用することができます。

防水ヘッドホンの接続

EQUINOX 700、900ともに、水深5mまで完全に浸かることができる防水性能を備えています。

Minelab EQUINOX防水ヘッドホンは、EQUINOXと一緒に使用すると防水シールを形成する独自のコネクタを備えており、水中での探知に使用する必要があります。



1. コントロールポッド背面のヘッドホンソケットからプラスチック製のダストキャップを外します。必要に応じて、小さなコインを使って緩めることができます。
2. ヘッドホンソケットとコネクタが乾いていて、砂やホコリ、汚れがないことを確認してください。
3. ヘッドホンをコントロールポッドの背面にあるソケットに差し込みます。
4. 固定用リングをコネクタのネジに注意深く合わせ、ネジの交差がないことを確認しながら、両者をねじ込みます。
 検出器LCDの右上にヘッドホンのアイコンが表示されます。
5. 固定用リングを軽く締めます。

ヘッドホンソケットの水没

ヘッドホンなしで水中探知をする前に、**必ず**、防水ダストキャップがヘッドホンソケットにしっかりと装着されていることを確認してください。

カバーなしのヘッドホンソケットは防水仕様なため、水没してもすぐに検出器の内部電子機器を損傷することはありませんが、ソケットの腐食やヘッドホンの誤検出を引き起こす可能性があります。

! ヘッドホンソケットを水没させた場合は、「**ヘッドホンソケットのメンテナンス**」(ページ 56)に記載されているすべてのアドバイスに従ってください。

バッテリーと充電

充電器に関する情報および安全性

EQUINOXシリーズの検出器には、スナップオンマグネットコネクタ付きのUSB充電ケーブルが付属しています。

大容量 (> 2A @ 5V) 充電器を使用した場合、完全にフラットな状態から100%までの充電時間は約5~6時間です。別売りで各種充電用アクセサリーをご用意しています。

USB充電に対応した標準的なUSBポートであれば充電可能ですが、低電力のポートや充電器を使用した場合、充電時間が長くなることがあります。

注意: 検出器の充電には、最低2A @ 5Vの充電容量を持つ良質のUSB充電器を使用してください。低品質の充電器を使用した場合、USB充電器が故障する危険性があります。

USB充電器には、次のようなマークがついています。



注意: 0°C~+40°C (+32°F~+104°F) の周囲温度で検出器を充電してください。

注意: 充電中やパワーバンクに接続した状態で、水中で検出器を使用しないでください。

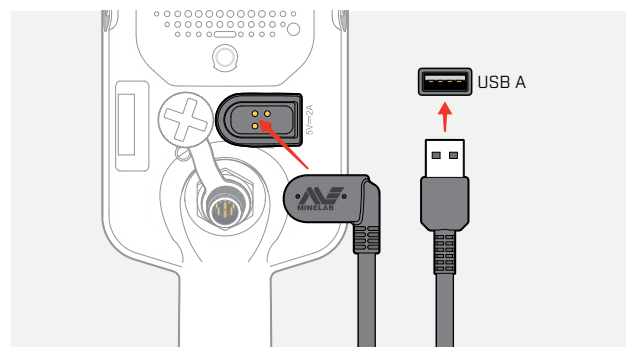
注意: Minelab金属検知器とアクセサリーは、主電源(AC)充電器に接続した状態で操作することを意図していません。

注意: バッテリーを満充電にして出かけることをお勧めします。標準的なバッテリー駆動時間は約12時間です。

バッテリーの充電



充電中に検出器の電源をオンにした場合、充電時間が長くなります。

1. 付属の充電ケーブルを、標準的な電源付きUSB-Aポートに差し込みます。
2. コントロールポッド背面の充電用インターフェイスにマグネットコネクタを接続します。



3. バッテリーの充電が開始されます。充電の進行状況を確認するには、充電ステータスLED (検出器オフ時に充電する場合) またはステータスバーのバッテリーレベルインジケータ (検出器オン時に充電する場合) のいずれかを参照してください。

充電状態LED

-  充電中 (点滅)
-  フル充電 (オン)

バッテリーおよび充電(続き)

バッテリー残量表示

バッテリー残量インジケータは、現在のバッテリー残量を表示します。



バッテリー残量インジケータ(フル充電状態を表示)



電池の残量にかかわらず、検出器の性能を一定に保つために、電池電圧を調整します。

自動シャットダウン



電池残量が極端に少なくなると、ターゲットIDディスプレイに「bF」と表示されます。その後、検出器は自動的にシャットダウンします。

このエラーを解決するための手順については、「[バッテリー残量不足エラー](#)」ページ上 51 を参照してください。

パワーバンクで操作する



注意: 充電中やパワーバンクに接続した状態で、検出器を水中で使用しないでください。

ポータブル電源に接続したまま、EQUINOX検出器を使用することができます。検出器のバッテリーが切れても、検知を続けることができます。

付属のEQUINOX USB充電ケーブルでパワーバンクと検出器を接続し、検出を続けてください。

バッテリーメンテナンス

「[バッテリーメンテナンス](#) 56」を参照してください。

エラーとトラブルシ ューティング

エラーコード

検出器の故障の中には、ターゲットID番号欄にエラーコードが表示されるものがあります。認定サービスセンターへ連絡する前に、推奨される対処法を試してください。

コイル接続不良エラー



「Cd」はコイル接続不良エラーの場合に表示されます。

コイル接続不良エラーが発生した場合は、以下の手順で対処してください。

1. コントロールポッド背面のコイルコネクタが正しく接続されていることを確認してください。
2. コイルケーブルが損傷していないか確認します。
3. コイルに目に見える損傷がないかを確認します。
4. 別のコイルがあれば試してみてください。

システムエラー

システムエラーコード「Er」は、周波数ディスプレイに表示されるエラーコード番号とともに表示されます。システムエラーを報告した後、5秒後に検出器がシャットダウンします。



システムエラーが発生した場合は、「Er」と表示されます。

システムエラーが発生した場合は、以下の手順で対処してください。

1. 検出器を再起動し、エラーがまだ残っているかどうかを判断してください。
2. コイルが正しく取り付けられていることを確認します。
3. 検出器の電源をオフにし、ターゲットIDディスプレイに「FP」が表示されるまで電源ボタンを長押しして、工場出荷時設定リセットを実行します。
4. それでもエラーが消えない場合は、最寄りのサービスセンターへ検出器を修理に出してください。

バッテリー残量不足エラー

電池残量が極端に少なくなると、ターゲットIDディスプレイに「bF」と表示されます。検出器は、「バッテリー残量不足エラー」が発生してから5秒後にシャットダウンします。



「bF」は、バッテリー残量不足エラーが発生した際に表示されます。

バッテリー残量不足エラーが発生した場合は、以下の手順で対処してください。

1. バッテリーを再充電するか、USBパワーバンクを接続します。
2. 内蔵電池を交換する場合は、指定サービスセンターへご連絡ください。

一般的なトラブルシューティング

正規サービスセンターに連絡する前に、推奨される対処法を順番に試してください。

検出器の電源が入らない、または勝手に電源が切れる（「bF」エラーコードの有無にかかわらず）

1. コイルが接続されていることを確認します。
2. 検出器を充電します。
3. 検出器が充電中であること、および充電状態LEDが緑色に点滅していることを確認します。
4. 2A @ 5Vの充電能力を持つUSB充電ソースから充電していることを確認してください。
5. コントロールポッド背面のマグネットコネクタと充電用インターフェイスがきれいで、ゴミがないことを確認します。
6. USB充電ケーブルが検出器に正しく装着/接続されていることを確認します。

不規則なノイズや過剰なノイズ

1. 電磁波干渉 (EMI) の発生源から遠ざけてください。
2. 自動ノイズキャンセルを実行します。
3. 対土壌バランス調整を行います。
4. 感度を下げます。

音が出ない — 有線ヘッドホン

1. 検出器がオンになっていること、起動が完了していることを確認します。
2. ヘッドホンが接続され、ヘッドホンソケットに完全に挿入されていることを確認します。
3. ステータスバーにヘッドホンインジケータが表示されていることを確認します。
4. 音量が聞き取れるレベルに設定されていることを確認します。
5. ヘッドホンを抜いて、検出器のスピーカーが聞こえることを確認します。
6. ヘッドホンのコネクタに水分やゴミがないことを確認してください。
7. 可能であれば、別のヘッドホンを使用してみてください。

音が出ない — ML 85ヘッドホン

1. ヘッドホンの電源がオンになっていることを確認します。
2. 検出器の無線がオンになっており、ヘッドホンとペアリングされていることを確認します（無線インジケータが点灯しているなど）。
3. ヘッドホンが充電されていることを確認します。
4. 検出器の音量が可聴レベルに設定されていることを確認してください。
5. ヘッドホンの音量調整が聞き取れるレベルになっているか確認してください。
6. 検出器と対応する別の無線ヘッドホンをペアリングします。
7. 有線ヘッドホンを試してみてください。

ML 85ヘッドホンがペアリングされない

1. ML 85ヘッドホンの電源をオフにして、再度ペアリングしてください。
2. ヘッドホンが検出器のコントロールポッドから1m以内にあり、ヘッドホンと検出器の間に障害物がないことを確認してください（自分の体を含む）。
3. 携帯電話などの干渉源から遠ざけてください。
4. 近くに他の無線機器が多数ある場合、ペアリングに時間がかかることがあります。その場から離れ、再度ペアリングを試みてください。
5. ヘッドホンを工場出荷時リセットし、検出器との再ペアリングを試みてください。
6. 検出器と互換性のある別の無線ヘッドホンをペアリングし、ML 85ヘッドホンを検出器に再度ペアリングしてください。

無線接続時にML 85ヘッドホンで歪み/音割れが聞こえる

1. ヘッドホンが検出器のコントロールポッドから1m以内にあり、ヘッドホンと検出器の間に障害物がないことを確認してください（自分の体を含む）。

一般的なトラブルシューティング (続き)

マスターバイブレーションがオンになっているが、振動がない

1. マスターバイブレーションがオンになっていることを確認します。
 2. 少なくとも1つのトーン領域で、バイブレーションがオンになっていることを確認します。
-

検出器は充電中で、充電状態LEDが点滅しているが、ステータスバーに充電インジケータが表示されていない。

1. 2A @ 5Vの充電能力を持つUSB充電ソースから充電していることを確認してください。
 2. 低電力のUSBポート(ノートパソコンのポートなど)から充電する場合、検出器は充電よりも速い速度でバッテリーを放電している可能性があります。これにより、充電インジケータが表示されなくなります。検出器の電源を切った状態で充電してみてください。
 3. 充電の際、USB延長ケーブルの使用は避けてください。
-

水中に沈めた後、スピーカーがキーキーと鳴る、または音が小さくなる

1. 検出器内部の気圧が正常に戻るまで、30分ほどお待ちください。なお、検出器を地面に置き、コントロールポッドを立てることで、より早く内部の気圧を均一化することができます。
-

ヘッドホンランプが点灯しているが、ヘッドホンが接続されていない

ヘッドホンソケットの内部に水分があり、有線ヘッドホンを誤検知している可能性があります。

1. ヘッドホンソケットに水や障害物がないことを確認してください。
 2. 水分がある場合は、温かい(熱くない)ドライヤーを使ってソケットを乾燥させてください。
-

安全性、お手入れ、メン テナンス

検出器のお手入れと安全性

一般的なお手入れと安全性

- 日焼け止めや虫除けなどを使用するときは、検出器を扱う前に手を洗ってください。
- ディスプレイレンズは、画面をクリアに見るために高品質の光学プラスチックで作られているため、十分な注意を払って扱わないと、傷がついたり、重大な損傷を受けたりする可能性があります。付属の画面プロテクターの装着を強くお勧めします。擦れたり、傷がついたりした場合は、定期的に交換してください。
- ディスプレイのレンズを、絶対に溶剤やアルコール系クリーナーで洗淨しないでください。ディスプレイのレンズをクリーニングするには、中性石鹼洗剤で少し湿らせた布を使用してください。水滴を取り除くには、糸くずの出ないきれいな布で拭いてください。
- 本探知器のいかなる部分にも潤滑剤やシーリング剤、溶剤、またはアルコールベースのクリーナーを使用しないでください。イソプロピルアルコールやシリコン潤滑剤のような一般的に刺激が少ないと考えられている化学物質であっても、材料の特性やシールの完全性を損なう可能性があります。本製品に化学薬品を使用した場合、保証が無効になる場合があります。清掃する場合は、低刺激の石鹼洗剤を含ませて少し湿らせた布を使用してください。
- 電池室は、付属のシャフトに組み立てた状態でのみ防水機能があるため、コントロールポッドをシャフトから分解した状態で水中に沈めないでください。また、市販のシャフトを使用すると、バッテリー室の密閉性が損なわれ、液漏れや破損の原因となりますのでご注意ください。
- 検出器をガソリンなどの石油系液体に接触させないでください。
- 検出器や付属品に鋭利なものを接触させると、傷がついたり破損したりすることがあります。
- シャフト、カムロック、ヨークアセンブリなどの可動部に砂や砂粒が入らないようにしてください。この部分に砂やゴミが溜まった場合は、真水で洗い流し、十分に乾燥させる必要があります。
- 探知を行う前に、カムロックがシャフトをしっかりと掴んでいて、滑らないことを確認してください。「**部品のメンテナンス**」—「**カムロックの締め付け**」(ページ 56)に記載されているアドバイスに従ってください。
- 探知機を極端な温度条件にさらさないでください。保管温度範囲は-20°C~+70°C(-4°F~+158°F)です。温度が極端なレベルに達する可能性があるため、暑い日に日なたに駐車した車内に放置しないでください。
- コイルケーブルが良好な状態に保たれていること、ひずみやねじれ、きつい屈曲がないことを確認してください。
- 防水仕様でない付属品は、液体・水分や過度の湿度にさらさないようにしてください。
- 小さな部品は窒息の危険がありますので、小さなお子様には検出器や付属品で遊ばせないでください。
- 付属の説明書に従って、検出器と付属品を充電してください。
- 極端な温度条件下で検出器やアクセサリを充電しないでください — 周囲温度0°C~+40°C (+32°F~+104°F) でのみ検出器を充電してください。
- 工具を使用してコイルコネクタをコントロールポッドに締め付けしないでください。コイルコネクタがうまくはまらない場合は、真水で汚れやゴミを洗い流し、乾かしてから再度試してみてください。
- コントロールポッド背面のコイルコネクタナットを調整しないでください。これはロックされているので、いたずらするとコントロールポッドが破損します。
- スピーカーグリルに鋭利なものを突き刺して掃除すると、スピーカーを損傷し、防水性が損なわれます。グリルから真水を流し、スピーカーを清掃してください。

検出器のお手入れと安全性(続き)

部品のメンテナンス

カムロックの締め付け

カムロックのプラスチック部品は、通常の使用でわずかに伸びるため、定期的に(通常使用で数ヶ月に1回)、または1ヶ月以上検出器を使用しなかった場合に締め付けが必要になる場合があります。

1. カムロックを開けます。



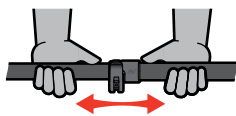
2. 蝶ネジは少しずつゆっくりと締めてください。



3. カムロックを閉じます。



4. 調整後、シャフトに法線方向の力を加えて確認してください。



5. 通常力でシャフトが容易に倒れないようになるまで繰り返します。

! 蝶ネジを締めすぎると、カムロック部品が破損することがありますので、ご注意ください。

バッテリーメンテナンス

リチウムイオン電池は、長期間使用しない場合、性能が低下することがあります。これを防ぐために、少なくとも3~4ヶ月に1回はフル充電してください。

リチウムイオン電池は、正しく手入れをしても、通常使用で時間の経過とともに性能が低下します。そのため、数年ごとに電池の交換が必要になる可能性があります。交換用電池は、Minelab認定サービスセンターで供給および取り付けが可能です。

! 内蔵電池を交換する場合は、Oリング潤滑剤、グリース、シリコングリースを含む化学物質をシールやOリングに塗布しないでください。バッテリーシールを損傷することになります。

コイルメンテナンス

スキッドプレートは、コイルを損傷から保護するための犠牲部品/交換部品です。スキッドプレートが過度に摩耗した場合は、摩耗する前に交換してください。

浜辺/海水探知後

砂は研磨性であり、塩は経年変化で金属部分を腐食させる可能性があります。検出器の部品に損傷を与えないために、記載されているアドバイスに従うことが重要です。

検出器に付着した砂を除去する

浜辺や海水で使用した後は、すぐに真水ですべての部品を洗い流してください。砂を拭き取ると、検出器に傷がつくことがありますので、避けてください。

両方のカムロックを開き、きれいな真水で洗浄します。

ヘッドホンソケットのメンテナンス

水中探知を行った直後は、ヘッドホン(または防水ダストキャップ)を取り外す前に、コネクター周辺が乾いていて、砂や泥が付着していないことを確認してください。

万が一、ヘッドホンソケットの中に砂や泥が入った場合は、真水で軽く洗い流し、十分に乾燥させてください。

ML 85ヘッドホンメンテナンス

ML 85のお手入れと安全については、ヘッドホンに添付されている説明書をご覧ください。説明書は、www.minelab.com/support/downloads/product-manuals-guidesからもダウンロードできます。

仕様、プリセット、コン プライアンス

技術仕様

	EQUINOX 700	EQUINOX 900
探査モード	公園、野原、浜辺	公園、野原、浜辺、金
すべての金属ショートカット	はい	
カスタム探査モード	6	8
ユーザープロファイルボタン	なし	あり
動作周波数 (kHz)	マルチ、4、5、10、15	マルチ、4、5、10、15、20、40
ノイズキャンセル	オート (19ch)	オート (19ch)、マニュアル
対土壌バランス調整	オート、マニュアル、トラッキング	
感度	1~25	1~28
ターゲット数量	0~25	
しきい値レベル	0~25	
しきい値ピッチ	固定	0~25
ターゲット識別 (TID)	119セグメントノッチ識別: 鉄: -19~0 非鉄: 1~99	
ターゲットトーン	1、2、5、すべてのトーン (At)、深度 (dP)	
トーンブレイク	鉄 (t1)	鉄、非鉄 (t1、t2、t3、t4)
トーンピッチ	調節可能なトーン1: 0~25	調整可能なすべてのトーン: 0~25
トーン音量	調節可能なトーン1: 0~25	調整可能なすべてのトーン: 0~25
回復スピード	1~3	1~8
鉄のバイアス	-1~3	-1~9
深度インジケータ	5レベル	5レベル
識別セグメント	119セグメント	119セグメント
ピンポイント探知モード	はい	
無線オーディオ	はい	
長さ(約)	短縮時: 61cm (24インチ) 伸長時: 144cm (56.7インチ)	
重量	1.27kg (2.8ポンド)	
ディスプレイ	モノクロ液晶	
ディスプレイとキーパッドのバックライト	赤 オフ、高、低	赤 オフ、高、中、低
フラッシュライト	オン、オフ	
バイブレーション	オン、オフ	
付属コイル	EQX11 11 インチダブルDコイル (スキッドプレート付)	EQX11 11 インチ、EQX06 6インチダブルDコイル (スキッドプレート付き)
オーディオ出力	スピーカー内蔵、有線3.5mm (1/8インチ) ヘッドホン、無線ヘッドホン	
付属のヘッドホン	Minelab ML 85低レテンシー無線ヘッドホン	
バッテリー	3.7V/5100mAh内蔵リチウムイオン電池	
追加付属品	スタートアップガイド、画面プロテクター、充電ケーブル	
防水	5m防水/16フィート、IP68	
動作音頭範囲	-10°C~+40°C (+14°F~+104°F)	
保存温度範囲	-20°C~+70°C (-4°F~+158°F)	
主要テクノロジー	Multi-IQ®	
保証書	製品保証のオンライン登録は、 register.minelab.com にてご登録ください。保証規約の全文は、 www.minelab.com/support/product-warranty からダウンロードできます。	

検出器と一緒に注文した機種やアイテムによって、装備品が異なる場合があります。Minelabは、継続的な技術的進歩に対応するため、デザイン、装置、技術的機能の変更をいつでも導入する権利を有します。EQUINOX検出器の最新の仕様については、www.minelab.comをご覧ください。

初期設定

一般設定 (グローバル)

🔊 音量調整	20
👁️ 感度	20
☀️ バックライト	オフ
🔦 フラッシュライト	オフ
🔊 バイブレーション	オフ

探査モードプロファイル

	公園1	公園2	野原1	野原2	浜辺1	浜辺2	金1*	金2*
📡 周波数	マルチ		マルチ		マルチ		マルチ	
🚫 ノイズキャンセル	0		0		0		0	
✈️ 対土壌バランス調整	マニュアル、0		マニュアル、0		マニュアル、0		📊 トラッキング	
🔊 トーン音量	12、25、25、25、25	12、25	4、25	4、25	4、25、25、25、25		12	
🔊 しきい値レベル	0		0		0		12	
🔊 しきい値ピッチ*	4		4		4		11	
🔊 ターゲットトーン	5	すべてのトーン (At)	2	すべてのトーン (At)	5		1	
🔊 トーンピッチ	1、6、12、18、25	1、20	1、20	1、20	1、6、12、18、25		-	
🚫 承認/排除	✕ -19~2 ✓ 3~99	✕ -19~0 ✓ 1~99	✕ -19~4 ✓ 5~99		✕ -19~0 ✓ 1~99		✕ -19~0 1✓ 1~99	
🚫 トーンブレイク	0、20、56、84	0	4	4	0、20、56、84		-	
🏠 回復スピード	2/4*	3/5*	3/5*	3/6*	3/6*	3/6*	5*	5*
🏠 鉄のバイアス	2/4*	1/2*	1/2*	0/0	3/6*	3/6*	4*	4*

* EQUINOX 900のみ

初期設定(続き)

高度なオーディオ設定のデフォルト

	公園1	公園2	野原1	野原2	浜辺1	浜辺2	金*1	金*2
トーン音量								
1トーン	25		25		25		25	
2トーン	12、25		4、25		4、25		—	
5トーン	12、25、25、25、25		4、25、25、25、25		4、25、25、25、25		—	
すべてのトーン (At)	12、25		4、25		4、25		—	
深度 (dP)	12、25		4、25		4、25		—	
トーンピッチ								
1トーン	11		11		11		—	
2トーン	1、20		1、20		1、20		—	
5トーン	1、6、12、18、25		1、6、12、18、25		1、6、12、18、25		—	
すべてのトーン (At)	1、20		1、20		1、20		—	
深度 (dP)	1、20		1、20		1、20		—	
トーンブレイク								
2トーン	0		5		0		—	
5トーン	0、25、50、75		5、25、50、75		0、25、50、75		—	
すべてのトーン (At)	0		5		0		—	
深度 (dP)	0		5		0		—	

* EQUINOX 900のみ

工場出荷時設定リセット

工場出荷時設定リセット機能は、検出器の設定、探査モード、識別パターンをすべて工場出荷時の状態に戻す機能です。

1. 検出器の電源がオフになっていることを確認します。
2. ターゲットIDディスプレイに「FP」と表示されるまで、電源ボタンを長押しします。



工場プリセットが復元されると、ターゲットID表示に「FP」が表示されます。

ソフトウェアアップデート

EQUINOXシリーズには、付属のUSB充電/データ転送ケーブルでアップデート可能なソフトウェアが搭載されています。

最新のEQUINOXソフトウェアとインストール方法については、www.minelab.com/supportをご覧ください。

文書使用権

この作品は、クリエイティブコモンズ 表示-非営利-改変禁止 4.0 国際ライセンス (CC BY-NC-ND 4.0) の下に提供されています。このライセンスのコピーを見るには、<http://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/>をご覧ください。



免責事項

この取扱説明書に記載されているMinelab金属探知機は、高品質の金属探知機として特別に設計、製造されており、危険のない環境での貴重品や金の探知に推奨されています。この金属探知機は、地雷探知機や実弾探知機として使用するために設計されたものではありません。

MINELAB®、EQUINOX®、Multi-IQ®、EQX06™、EQX11™、EQX15™は、Minelab Electronics Pty.Ltd.の商標です。

コンプライアンス

製品のコンプライアンス情報を表示するには、ノイズキャンセルの設定に移動し、すべての金属ボタンを長押しします。



規制情報の詳細については、同梱の「取扱説明書および安全情報」リーフレットを参照してください。

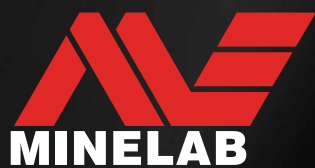


Minelab Electronics,
PO Box 35, Salisbury South,
South Australia 5106





www.minelab.com



4901-0476-2-JP

